公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

2020年6月発行

米山学友の群像 学友会特集号

Yoneyama Alumni in the World

C O N T E N T S

1.ロータリー米山記念奨学事業とは……2

2.米山学友会の活躍……5

3.「絆 in モンゴル」開催リポート……34

ホームカミング制度のご案内

ロータリー米山記念奨学会では、2008年度より「ホームカミング制度」を設けて、米山学友の里帰り訪問を推進しています。

「ホームカミング制度」を利用して、活躍する元米山奨学生を各ロータリー地区で毎年2人まで招待できます。地区大会などで現在の活躍を披露していただくことで、「寄付の成果が実感できる」と大変好評です。もちろん学友にとっても、日本との絆、ロータリーとの絆を深めるまたとない機会となっています。

対象は、海外・国内在住いずれもOK!他地区出身の学友も招待できます。費用は、米山記念奨学会から補助されます（上限あり）。

「ホームカミング制度」の詳細については、米山記念奨学会ホームページをご覧ください。

http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

1 ロータリー米山記念奨学事業とは

民間最大の国際奨学事業です

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリークラブ会員の寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学財団です。

1967年に財団法人として設立の許可を受け、2012年に公益財団法人に移行しました。これまでに世界129の国・地域出身の21,624人（2020年6月現在）におよぶ外国人留学生を支援し、今日では、事業規模と採用数において、民間で最大の国際奨学団体となっています。

【奨学金の種類と採用人数（2020学年度）】

ロータリー米山奨学金一覧	月　額		募集システム	人 数
1. 学部課程（YU）	10万円	指定校推薦	大学・大学院対象の代表的なプログラム	823人
2. 修士課程（YM）	14万円			
3. 博士課程（YD）	14万円			
4. 地区奨励	7万円		短大・高専など。1人枠で2人採用可	17人
5. クラブ支援（CY）	14万円	現役奨学生の期間延長制度（世話クラブ推薦・半額負担）		13人
6. 海外応募者対象	10万円 14万円	来日前の日本留学希望者が応募できる新制度。公募制。		28人
7. 海外学友会推薦	14万円	海外の学友会が募集・選考する研究者助成。公募制。		2人

上記は、2020学年度（4月1日～翌3月31日）の採用数です。

世界の平和を願って始まった奨学事業

ロータリー米山記念奨学事業の歴史は、50年以上前にさかのぼります。

敗戦後の復興が続く1952年、日本のロータリーの礎を築いた米山梅吉氏の功績を記念して、東京ロータリークラブによって「米山基金」が設立されました。日本のロータリーが国際ロータリーに復帰して３年後、米山梅吉氏がそれを見ずして、奉仕に捧げた生涯を終えてから6年後のことです。米山梅吉氏が生前、東南アジアに深い関心をもっていたことから、ロータリー財団の国際奨学制度に模して、アジア諸国から奨学生を招致しようというのが基金設立の目的でした。そして、2年にわたる募金活動の後、1954年にタイから第1号奨学生となるソムチャード氏を招聘したのです。氏は、東京大学で養蚕学を研究し、帰国してからはタイの蚕糸局に入局、タイシルクの増産に貢献しました。

米山記念奨学金の創設の目的は、日本が再び戦争の過ちを繰り返さない誓いと、世界に“平和日本”の理解を促すことにありました。留学生が平和を求める日本人と出会い、互いに信頼し合う関係を築き、「世界の懸け橋」となることを願ってつくられたのです。

米山基金による第1号奨学生ソムチャード氏（1954年）

奨学生懇親会（1958年）

「世話クラブ・カウンセラー制度」による留学生の心のケアを重視しています

ロータリー米山奨学金制度の最大の特徴は、経済的な支援だけでなく、「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて、奨学生の精神面のケアを図っていることです。

親善・交流を通じた国際理解を推進する米山奨学事業の要であり、ロータリークラブという地域密着の組織だからこそできる重要な特性といえるでしょう。

奨学生には、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれます。さらに世話クラブの会員の中から、専任のカウンセラーが１人付いて、奨学生の日常の相談に乗ったり、文化体験の案内役や交流の橋渡しに努めたりして、奨学生の日本での生活が心豊かなものになるように配慮しています。大学の指導教員と連絡を取り合ったり、自宅に奨学生を招いて家族ぐるみで交流する例も多くあります。

奨学生には毎月１回以上、世話クラブの例会に参加することが義務づけられており、奨学金もそこで手渡されます。そのほかにも、奨学生には、クラブの例会で母国のことや自分の研究について卓話（スピーチ）したり、クラブ・地区の社会奉仕活動、交流会や研修旅行に参加するなど、ロータリーの活動を通じて、日本文化や地域社会と触れ合うさまざまな機会が提供されます。

「世話クラブ・カウンセラー制度」は、国費や他の奨学金制度には無い魅力として、奨学生はもとより、他団体や大学、行政機関などからも注目されています。

米山カウンセラーとの交流

ロータリーの地区やクラブの行事に参加

奨学生によるスピーチ

米山梅吉さんって、どんな人？

米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏（1868－1946）は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。15歳（満年齢 以下同じ）の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。19歳で米国へ渡航し、ベルモント・アカデミー（カリフォルニア州）、ウエスレアン大学（オハイオ州）、シラキュース大学（ニューヨーク州）で8年間の苦学の留学生活を送りました。

帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を“社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー（Philanthropy）の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて緑岡小学校（現在の青山学院初等部）を創立しました。

“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身をもって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。

もっと知りたい人は「米山梅吉記念館」へ！

『公益財団法人 米山梅吉記念館』は、日本におけるロータリーの祖である米山梅吉氏の生い立ちや人となり、功績を伝える資料館です。（当会とは別法人となります）

所在地：〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
開館時間：午前10時～午後4時（月曜休館）
ホームページ：http://yoneyama-umekichi.jp/

ロータリーとは

ロータリーの誕生とその成長

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人３人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年２月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数36,158、会員総数1,217,616人（2020年5月18日国際ロータリー公式発表）に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

日本のロータリー

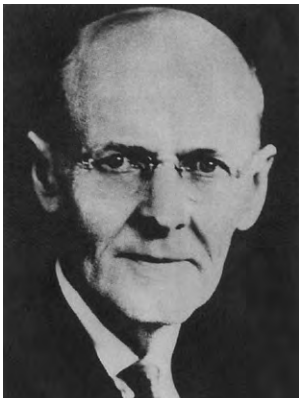
わが国最初のロータリークラブは、1920（大正９）年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年４月１日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

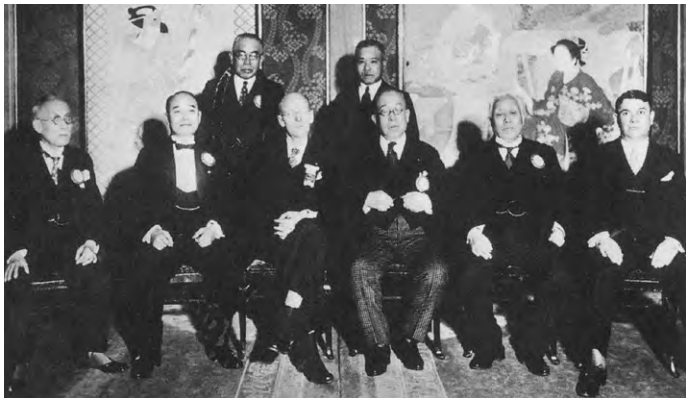
その後、日本のロータリーは、第２次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年３月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第３代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は2,248、会員数88,309人（2020年4月末現在）となっています。

出典：『ロータリーの友』（※）2020年7月号より
※『ロータリーの友』は、日本のロータリー会員向けに毎月発行されているロータリー地域雑誌です。



ロータリーの創始者ポール・ハリス（1868-1947）



1935年、来日したポール・ハリス（前列左から3番目）を囲む米山梅吉（左隣）ら日本のロータリアン

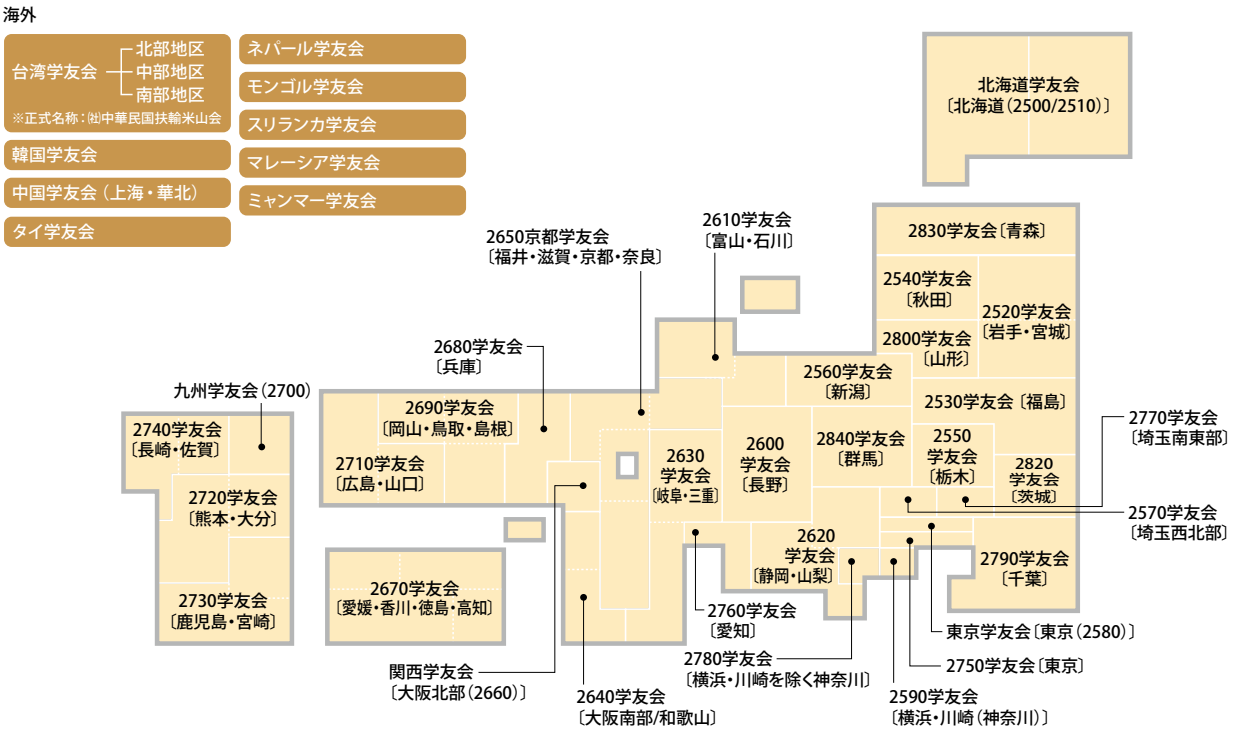
日本のロータリーの父 米山梅吉（1868-1946）

2 米山学友会の活躍

米山学友会は、学友と現役奨学生によって組織される米山記念奨学生の同窓会組織です。現在、日本国内に33、海外に9（台湾・韓国・中国・タイ・ネパール・モンゴル・スリランカ・マレーシア・ミャンマー）の計42の米山学友会があります。

いずれの学友会も、会員同士、会員とロータリアンとの親睦を深めたり、地域のロータリー地区と協力して奉仕活動を行うなど、さまざまな活動をしています。

米山学友会一覧



CLOSE UP！ 学友会 1

台湾米山学友会

多彩な人材と奉仕の力で日台の懸け橋に

日本人留学生を支援して 10 年

大きな拍手の中、留学生一人一人に奨学生証書が手渡されます。米山奨学生を受け入れた、日本の世話クラブの光景にも似ていますが、これは台北市でのこと。笑顔の日本人留学生に証書を渡すのは、台湾の米山学友会・扶輪米山会（以下、台湾米山会）の第 7 代理事長、呉憲璋（ウーシェンツァン）さんです。

台湾米山会では 2009 年 9 月から、台湾の大学・大学院で学ぶ日本人留学生を対象に「日本人若手研究者対象奨学金」をスタート。月額 2 万 5,000 台湾ドル(約 9 万円)が 1 年間支給されるだけでなく、学友会会員からカウンセラーがつき、物心両面のサポートを提供します。今年度の第 10 期奨学生の一人、国立屏東科技大学大学院で農園生産を専攻する烏谷亜紗子さんは「台湾に来て半年。まだ言葉の壁が厚く、不安や辛いことも多々ありますが、台湾米山会との交流を通じて貴重な体験や出会いがあり、とても感謝しています。研究にも専念でき、改めて台湾へ留学して良かったと感じています」と、感想を寄せてくれました。

呉理事長から烏谷さんに証書

台湾米山会の理事と監事、第10期奨学生を囲んで

まさに「台湾版米山記念奨学金」とも呼べるこの奨学制度の財源は、学友会会員からの寄付金を柱としており、この事業に賛同する台湾や日本のロータリー関係者の支援も寄せられています。台湾の学友からの恩返しとして年に 1 人を対象として始まりましたが、10 年目の今年は、過去最多の 5 人の奨学生を迎えました。これまでに支援した学生は累計で 25 人。台湾米山会の年次総会に参加し、この事業を知って刺激を受けた韓国米山学友会も、2 年前から日本人留学生の奨学制度を始めるなど、その影響は国を超えた広がりを見せています。

米山は心に刻まれる温かな印

台湾米山会では、かつての自分たちと同様に、日本への留学を希望する台湾の若者も応援しています。台湾で開かれる日本留学フェアに毎年ブースを出展し、参加者に自分たちの経験や米山奨学金の情報を伝えて、日本留学を後押ししています。台湾米山会幹事長の張逸崑（チャンイクン）さんは「日本留学の相談役として、米山奨学金のことだけでなく、大学の情報についても知っておかなければなりません。私たちにとっても挑戦ですが、多くの後輩たちに日本留学を経験してもらいたいという思いで取り組んでいます」と語っています。

これらの奉仕活動のほか、台湾米山会は、日本の災害時にはいち早く会員に募金を呼び掛け、復興支援のための義援金を寄付しています。最近では、東日本大震災の際に 257 万 6,000 円を、また、今年 9 月上旬に日本を襲った 2 つの災害、台風 21 号と北海道胆振東部地震に対しても、3 週間で

日本留学フェアにて

昨年12月の年次総会後の懇親会

米山記念奨学事業の成果であり宝である学友と現役奨学生によって組織されるのが「米山学友会」です。現在は日本全国で 33 団体、海外 9 団体が活動しています。今月から始まる新シリーズでは、各学友会を取り上げ、その活動や会員の声をご紹介します。第 1 回は、1983 年に国内外合わせて最初に創立された米山学友会「台湾米山会」です。520 人超の会員を擁し、台湾で正式な社団法人として活動する台湾米山会には、日本留学から長い年月を経ても尽きることのない、感謝と奉仕の心を持った素晴らしいメンバーが集っています。

約 105 万円の義援金を集めて寄付してくれました。

帰国して何年、何十年たとうと、日本への親愛の情を持ち続け、それを奉仕の力に変えて“日台の懸け橋”となって活動する台湾米山会のメンバーたち。その思いを呉理事長は、次のように答えてくれました。

「米山という名が心に刻まれ、温かな印となり、日本留学中にお世話になったことを思い出すたび、ご恩をお返ししたくなります。私たち台湾の米山学友は、社会奉仕の価値と意義を感じながら、楽しく活動しています。

米山に参加し、自ら履行し、心がより潤う。
米山に参加し、善意を持ち、熱意がさらに高まる。
米山に参加し、感謝を思い、恩返しの思いが湧く泉のように絶えない。
米山に参加し、愛を持ち、自信と活力が身に付く。

これからも、この思いを皆で共有し、ますます充実した活動ができるように、一緒に頑張ってまいります」

多彩な学友が一堂に会する機会

現在の台湾米山会の会員は 520 人超。35 年の歴史ある学友会だけあって、台湾の財界や教育界、文化界を支える著名な学友が数多く所属しているのが特徴です。

例を挙げれば、世界で初めてブラックタイガーエビの養殖を成功させ、台湾の水産業を研究者として支えた廖一久（リョウインキュウ）さん、村上春樹作品を世界で最初に翻訳して紹介した、中国語圏を代表する翻訳家の賴明珠（ライミンチュ）さん、女性初の国立故宮博物院院長に就任し、斬新な改革を行った林曼麗（リンマンレイ）さん。そして、台湾の米山学友として初めてガバナーに就任した許國文（キョコクブン）さん、許さんに次いで 2 人目のガバナーとなった林華明（リンカミン）さん。「台湾流通業の父」と呼ばれる実業家で台湾初の日本語を公用語とするクラブ・台北東海ロータリークラブの創立会長となった徐重仁（ジョジュウニン）さん、東南アジア最大の変圧器メーカー会長の許邦福（キョオウフク）さん、シェア世界一のジェットスキー・ヨット用プロペラメーカー社長の林允進（リンユンジン）さん、緑の建築の分野で台湾を代表する研究者の江哲銘（コウテツメイ）さんなど、ロータリアンとして活躍する学友も数多くいます。また、呉理事長自身、日本で学んだ矯正教育を基に“奇跡”と呼ばれた刑務所改革を行い、台湾法務部矯正局の初代局長を務めた人物です。

このような多彩な顔触れの学友が一堂に会する機会が、毎年 12 月に開催される台湾米山会の年次総会であり、日本からも多くのロータリアンや学友が参加して、国や世代を超えた“米山の絆”を深め合います。ちょうど本号が読まれる頃は、今年の年次総会が終わったばかり。ぜひ来年は、皆さんも台湾に出掛けて、学友たちと交流しませんか？　台湾米山会のメンバーは、いつでも日本からのゲストを歓迎しています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

私は応援します！

2014 – 15 年度
国際ロータリー会長
2019 – 20 年度
ロータリー財団管理委員長

黄　其光 氏
(Gary C.K. Huang)

昨年のロータリー米山記念奨学会・財団設立 50 周年をうれしく思うと同時に、台湾米山会が 1983 年創立から 35 周年を迎えたことを大変光栄に思います。長年にわたる歴代理事長と学友の努力により、台湾米山会は、多くの素晴らしい事業を行い、日本の米山の文化と伝統を継承しています。

台湾と日本は常に良好な関係にあり、日本が大きな災害に遭うと、台湾の米山学友たちはすぐに募金と支援活動を開始します。この感謝の気持ちは、米山の「献身、奉仕、報恩」の精神にのっとったもの。現在の米山奨学生たちも自分の能力を高め、将来、ロータリーと社会にお返しできる人材となるよう願っています。

米山の事業が多くの人に幸せを与えていることに感謝します！

台湾と日本の友情が永遠に続くことを祈ります！

本稿は、『ロータリーの友』2018 年 12 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会2

第2620地区米山学友会

地区とクラブとロータリアンと共に

ブービー賞の学友会

日本各地に米山学友会が創立され、学友会のない地域は残り3地区となった2008年。第2620地区米山記念奨学委員長に就任した小野毅氏（三島ロータリークラブ、以下RC）が『ロータリーの友』をめくっていると、第2830地区（青森県）に米山学友会が結成された、という記事が……。「これはいかん！　一刻も早く学友会を立ち上げないと、米山梅吉翁のお膝元であるわが地区が最後になってしまう！」

こうした焦燥感が地区と学友を動かし、2009年3月1日に設立総会を開催。米山記念奨学会から駆け付けた板橋敏雄理事長（当時）は「これで学友会がない地域はあと1地区となりました。あなたたちはいわばブービー賞であり、大変価値のある設立です」と、笑いを誘いつつ祝辞を述べました。

学友会設立後、実は最も難しいのは活動の継続。人が集まらず、年1回の総会を開くのがやっと……と苦労する学友会もある中、同学友会は地区米山奨学委員会や地区内クラブと連携し、多様な活動を展開しています。

例えば、設立の翌年から始めた地区大会でのお茶のサービス。毎年「友愛の広場」にブースを出し、奨学生と共に民族衣装で母国を紹介しつつ、各国のお茶を振る舞っています。奨学生選考試験では受付や案内の手伝いだけでなく、面接官にも加わっています。オリエンテーションや終了式にも欠かさず参加。その他、地区主催の富士山清掃活動、静岡西RCの記念植樹活動、パワー浜松RCの防潮堤植林活動、沼津柿田川RCの柿田川清掃奉仕活動など。特に、柿田川清掃活動は、第2620地区と第2580地区（東京都・沖縄県）の協同事業となって4年がたち、学友会メンバーの役割も大きくなっています。

地区とクラブと“つながる”ために

地区・クラブとの協力を支えている要因は主に3つ。

1つ目は、学友会の拠点を米山梅吉記念館にしたこと。同地区には日本のロータリーの“聖地”ともいえる米山梅吉記念館があり、地区としても学友会としても、象徴となる拠点があることは大きな強みです。

2つ目は、歴代の地区米山奨学委員をはじめ、奨学生・学友に関わるロータリアンの熱意。学友会のために地区から補助金を支給したり、奉仕活動への参加を呼び掛けたり、横断幕などを作って士気をアップさせるなど、米山学友をロータリーの輪の一員として支えています。前述の沼津柿田川RCでは、なんと会員全員が学友会の賛助会員になっているそうです。

3つ目は、学友会側の“つながる”努力。ガバナー就任前のエレクトやノミニーには、代表メンバーが学友会の活動や方針を説明。ク

岩手県山田町で植樹

柿田川での清掃活動

国内の米山学友会が直面する運営上の困難はいくつか挙げられますが、その一つに“地区やロータリークラブとの距離感”があります。独立した組織とはいえ、ロータリー家族の一員である以上、地区やクラブとの協力は欠かせません。今年3月に設立10周年を迎える第2620地区（静岡県・山梨県）米山学友会は、会員数が多いとはいえませんが、海外の貧しい子どもや地域への支援活動といった学友会独自の活動に加え、地区や地区内クラブに協力して数多くの事業を実施しており、その存在感を高めています。

ラブの卓話に学友を派遣し、奉仕活動に誘われれば、誰かが参加するよう調整しています。

学友会独自の活動も展開

学友会独自に地元の駅や海岸での清掃活動、2017-18 年度からはスリランカの児童に学用品、農村地域に医療器具を寄贈。2019 － 20 年度は「モンゴルの子どもたちに夢の本を贈ろう！」事業を実施する予定で、既に準備を始めています。東日本大震災後には、被害を受けた岩手県下閉伊郡山田町で河津桜の植樹も行いました。

2012 年から第 3 代会長を務めた上野佳子さんは、「私たちの学友会は理事会がきちんと機能しているのが強み。会長は定期的に交代し、役員の国籍バランスにも配慮しています。やる気があれば若い学友でも理事に登用されます」と。こうした配慮が、多彩な活動につながっているのかもしれません。

課題はあれど、信じる気持ちを持って

一方、課題もあります。同地区は静岡・山梨の2県にまたがっており、全員が集まる機会がなかなか得られません。就職などで転居する人も多く、学友の確保も悩みの一つです。このため、地区内を3つのエリアに分け、エリアごとに定期的な親睦活動を行うことで、少しずつ参加者を増やしています。また、米山だけでなく財団学友やローターアクター、インターアクターとのつながりを強化しており、昨年は財団学友会に協力し、ポリオ撲滅募金活動も行いました。

2018 年1 月に世話クラブの甲府南ＲＣに入会したラシタ・エリヤーワさん。2017 年から第 5 代会長を務める彼ですが、幼い一児の父でもあり、「どの学友会も同じだと思いますが、会長の負担が大きく、次のなり手を探すのが大変」とも。これまで以上に役割分担を心がけていますが、学友会に多くの時間を割ける人はそう多くないのも現実です。

とはいえ、「この学友会が皆にとって平等で、楽しい場所になることが願い。人が集まればできることも多くなります。日本のロータリアンのすぐ近くにいる学友会だからこそ、日本と世界との懸け橋になることができると信じています。恩返しの気持ちを忘れず、活動していきたい」と、ラシタ会長は心を奮い立たせています。

なお、今年創立 10 周年を迎える第 2620 地区米山学友会は 3 月 3 日、米山梅吉記念館にて記念式典を開催します。一人でも多くの皆さまに、彼らの成長と新たな一歩を見届けていただければ幸いです。

ロータリー米山記念奨学会事務局

スリランカにて

私は応援します！

米山記念奨学会理事
2006 － 07 年度
第 2620 地区ガバナー

井上　雅雄 氏

当地区には米山梅吉氏の屋敷跡に建てられた米山梅吉記念館があり、年 2 回の例祭には米山学友たちの手伝いがあるほか、地区の行事には必ずといっていいほど学友会メンバーの姿があります。

歴代会長、特に第 3 代会長の上野佳子さん、第 4 代の篠原暁恵さんの時代から活動がより活発化し、参加者が増えました。現会長のラシタさんはわが甲府南RCの会員でもあり、彼のリーダーシップの下、学友・奨学生たちがクラブの奉仕活動によく参加し、協力する姿は頼もしく、ローターアクターなど若い世代同士のつながりもできつつあります。

これは、米山梅吉翁が緑岡小学校（現・青山学院初等部）の朝礼で話された言葉「人々にしてほしいと望むことは、人々にもその通りにせよ」をまさに実践するものと、誇りに思っています。

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 1 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 3

関西米山学友会

Action with Smile で、活動を楽しもう！

ネパール人を感激させた総会

2015 年4 月25 日、ネパールの首都カトマンズ近郊を震源とする大地震が発生。死者は 8,000 人を超え、負傷者 2 万人以上、全壊家屋は約 51 万戸という甚大な被害の報告を受け、第 2660 地区（大阪府）の米山奨学生学友会（関西）（以下、関西学友会）が支援に立ち上がりました。

2015 年7 月の総会ではネパールの踊りや歌を練習して披露し、復興支援を呼び掛け

翌月、第2660 地区が市民祭とタイアップして開いた「ロータリーフェスティバル」に、関西学友会も参加。学友・奨学生と地区米山記念奨学委員が協力し、手作りの募金箱を持って、市民に復興支援を呼び掛けました。さらに、7 月の新規奨学生歓迎会を兼ねた学友会総会では「実践躬行（きゅうこう）　ネパール復興支援祭」として各テーブルに募金箱を置き、学友らがネパールの民族衣装を着て出席。「悲しむのではなく、ネパールの明るい未来のため力を合わせたい」と、練習した踊りや歌を披露し、最後はネワール族伝統の民族太鼓に合わせて、大勢の参加者が踊りながら練り歩き、総会を盛り上げました。

「この時の感動が今も原動力になっている」と語るのは、2017 – 19 年度の関西学友会会長を務めるディネス・シュレスタさん。ネパール出身の彼は「あれは、ネパール人なら誰が見ても感激します。学友会が一丸となって支援してくれたことに自分も応えたい、その思いで会長を引き受けました」と振り返ります。

この総会を企画したのは、2013 – 15 年度の会長を務めた何玉翠（ホユーツイ）さんです。ディネスさんをはじめ周囲の学友、ロータリアンが絶賛する行動力で、学友が主役となって活動できる仕組みづくりと、地区や国を超えて交流できるネットワークづくりに手腕を発揮しました。

垣根を取り払って誰もが交流できる場に

まず何さんが手掛けたのは、自身も「面白くない」と感じていた総会を変えること。関西学友会は第 2660 地区出身以外のメンバーも多いことから、地区の垣根を取り払い、誰もが気軽に参加できる場をつくりたいと、会長初年度の総会は「米山学友大集合」と銘打って、国内外の米山学友会に参加を呼び掛けました。それに応え、海外から韓国、台湾、中国、タイの学友会、国内から 6 つの学友会の代表者らが参加。以降、毎年参加する学友も多く、「米山学友には日本語とい

2018 年の総会は、国内外からのゲストと合わせて189 人が参加

1986 年に創立された米山奨学生学友会（関西）は、日本で今、最も活発な米山学友会の一つといえるでしょう。毎年 7 月初めに開かれる新規奨学生歓迎会を兼ねた学友会総会には、地区の学友・奨学生、ロータリアンはもちろん、海外や他地区の学友会からも多くのゲストが参加。楽しい雰囲気が気に入って毎年参加する人も。しかし、関西学友会も最初から活発に活動できたわけではなく、地区のロータリアンの理解と協力の下、歴代の学友会会長や役員がさまざまな改革を行った結果、現在に至りました。活動に人が集まらないと悩む会も多い中、今回ご紹介するケースは、きっと多くの人の参考になるのではないでしょうか。

う共通の言語、ロータリーという共通の話題がある。初対面でもすぐに親しくなれるし、一緒にいて楽しい。そして皆、どこかで関わりたいと思っている」と、何さんは強く感じたそうです。

それを機に、総会を訪問し合うなど学友会同士の交流が活発になり、2016 年にはソウル、2017 年には熊本で、世界各地から学友が集まる一大交流イベントに発展。関西学友会は各ホスト学友会と協力し、中心となって活躍しました。このイベントはモンゴル学友会に引き継がれ、今年 7 月 27 日、ウランバートルで「絆 in モンゴル」が開催される予定です。

楽しいことには自分から来てくれる

学友が行事に自由に参加できるよう、年会費制を廃止したり、地区のロータリアンに応援してもらえるようサポーター制度を導入したりと、何さんの改革は多岐にわたりました。ロータリーに倣って、会長の方針を総会テーマにするようになったのも何さんからです。

ロータリアンへの感謝を伝える米山感謝祭

最初の「米山学友大集合」に始まり、翌年は「飲水思源（水を飲む者はその源に思いを寄せて、の意）」、2015 – 17 年度会長の潘振興（ハンシンコウ）さんは「実践躬行」。そして、現ディネス会長が掲げたのは「Action with Smile」。「楽しく皆で進めよう」「笑顔でやるべきことをやろう」という、関西学友会のモットーを表しています。どこの学友会でも共通の悩みですが、学友たちは皆、忙しく、時間のやりくりが何より難しい。だから、できることは人それぞれでいい、できなくても責めずに皆でカバーし合う、そのポリシーを関西学友会は貫いています。

「関西学友会のすごいところは、運営する側がとにかく楽しんでやっていること。そういう会は面白い。行事そのものも楽しいが、準備段階がもっと楽しい。人は楽しいことには、呼ばれなくても自分から来てくれるんです」とディネスさん。

一方、皆が意欲的になった結果、7 月の総会と 3 月の米山感謝祭の二大行事のほか、運動会や懇親会、学友が講師となって母国語や料理、専門知識を教える「米山教室」（新規事業で、参加費は社会貢献活動に寄付の予定）、地区やクラブの行事、奉仕活動への協力など、毎月イベントが目白押しに。「多すぎて、全部参加できないよ」とぼやく声もあるそうで、ディネスさんは「風呂敷を広げ過ぎて収拾がつかなくなってはいけないが、メンバーの“やりたい”という気持ちも止めたくない。そのバランスが難しい。ある意味、うれしい悲鳴です」と、苦笑しつつ語ってくれました。

最後に今年、新たに会長のバトンを受けるアリフ・ザイニさんの抱負は……。ずばり「懸け橋になること」。ロータリアンと現役奨学生の懸け橋、国内学友同士の懸け橋、海外と国内の学友の懸け橋など、「学友会を通じてさまざまな人が出会い、新しい懸け橋が創造される。その使命に貢献できることに何よりもやりがいを感じます」。学友会の使命と共に、まず自らが活動を楽しむという関西学友会流のスタイルも、アリフさん率いる新体制に受け継がれていくはずです。

ロータリー米山記念奨学会事務局

私は応援します！

米山記念奨学会
副理事長
2003 – 04 年度
第 2660 地区ガバナー

若林　紀男 氏

関西学友会の行事に参加すればするほど、学友会の役員の素晴らしいリーダーシップに感心させられます。当地区にとってこの学友会は、米山記念奨学事業を皆に啓発する存在であり、「このような人たちが育っている」という成果が見えるのは、学友会のおかげです。

米山記念奨学事業は「学資支援」と「人材育成」の二本柱ですが、人材育成は、1 ～ 2 年の奨学期間で完結するわけではなく、むしろ終わってからのロータリアンとの関わりで成されるものだと思います。関わりが続くほど、人材育成の成果も上がり、われわれの感動も大きくなります。関西学友会の働き掛けから、国を超えて学友が集まる機会もできました。まず親睦、そして次のステップとして、テーマ性のある活動に発展していくことも期待しています。

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 2 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会4

モンゴル米山学友会

一大イベントを控え、団結力強化中

学友会設立のきっかけ

「自分の母国にも米山学友会をつくりたい」、そう願う学友は少なくありません。しかし、同じだけの“熱量”を持つ仲間たちを見つけて組織し、活動を続けていくのは容易ではありません。

モンゴルの米山学友、ジャンチブ・ガルバドラッハさん（1998－99／山形北ロータリークラブ、以下RC）もそんな一人でした。帰国後、日本式の運営を採り入れた「新モンゴル高校」を設立。一から始めた学校経営は10年ほど苦難の連続でした。そんな中、学友会設立に向けた最初の契機は、2011年にモンゴルで2番目に創立したフレーRC（第3450地区）に入会したこと。それまでも日本との接点はありましたが、以後ロータリアンとの交流が増え、来日の際は東京の米山記念奨学会事務局にも顔を出すようになった、と言います。

日本人兵士の墓地に植樹

児童養護施設の子どもたちと

海外の米山学友会は、長い間、台湾と韓国だけでしたが、09年に中国で設立されて以降、12年にタイ、翌年にネパールと、結成が相次ぎました。他国のこうしたニュースもまた、原動力の一つとなりました。

13年秋のこと。モンゴルを訪問した当奨学会事務局員を歓迎しようと、20人ほどの学友がウランバートルのレストランに集まりました。その場で学友会設立の話が持ち上がり、全員一致で賛同。ジャンチブさんは奨学会から提供された名簿を頼りに一人一人に連絡を取り、34人の学友からも賛同を得ました。こうして14年1月、海外で6番目の学友会がモンゴルで誕生、3月1日には創立祝賀会が開催され、日本からロータリアン9人、レンツェンドー・ジグジッド元駐日モンゴル大使、フレーRC会長などがお祝いに駆け付けました。

ロータリアンになった学友のリーダーシップ

同学友会が、設立からの5年間で実施した活動は数え切れないほど。特に、初代会長のジャンチブさんや2代目会長のペレンレイ・ツェレンミンジンさん（2001－02／寝屋川RC）が“ロータリアン”であることの波及効果は大きく、日本のクラブとの協同プロジェクトに学友会が全面協力することも多くあります。

2017年の総会にて。日本からは約80人が出席

例えば、貧しいゲル地区の学校に図書館をつくる「図書館プロジェクト」は、同学友会にとって代表的な活動の一つ。大阪東RCとフレーRCが中心となって推進するプロジェクトですが、日本側からの協力の申し入れに対し、「私が会長になったら必ず協力します」と、立ち上がったのがジャンチブさんでした（『ロータリーの友』16年11月号横組みP24～25参照）。これに学友会やフレーローターアクトクラブも協

2014 年に海外 6 番目の学友会として設立されたモンゴル米山学友会は、ジャンチブ・ガルバドラッハさんという学友の、強いリーダーシップで歩み始めました。設立後の 5 年間で会長が 4 人目という異例の多さですが、これはロータリーに倣ってのこと。会長だけが頑張るのではなく、多くの会員が参画できる学友会を目指しています。今年 7 月 27 日は、世界の米山学友、そして日本のロータリアンが参加する一大交流イベント「絆 in モンゴル」を、同学友会が主催します。みなさん、ぜひご参加ください。

力し、これまでに計 4 つの学校に図書館をつくって、少ない授業時間を余儀なくされているゲル地区の子どもたちの学ぶ環境を整えています。

会員の特性を生かして

モンゴル米山学友会には若い会員が多いものの、貧困・衛生・医療といった自国の社会問題を他人事とせず力になろうと、皆が高い志を持っています。

「米山奨学金の価値を一人一人が認識し、恩返しの気持ちを育てる元気な学友会に」（ジャンチブさん）、「積極的な活動を大事にしながら、学友が話し合える場、情報発信できる場に」（ペレンレイさん）といった思いが実を結び始めました。第 2 次世界大戦中にモンゴルで死亡した日本人兵士の墓地に植樹をしたり、モンゴル赤十字社と協力して日本の家庭向け医学書の一部を手分けして翻訳し、学校などに配布したりしました。これは口コミで評判が広がり、準備した約 1,000 冊はすぐになくなりました。この他、中高生への性教育、児童養護施設の子どもの支援なども実施しています。

翻訳して配布した家庭向け医学冊子

17 年から第 3 代会長を務めたシルネン・ブヤンジャルガルさん（2010 － 11 ／ 成田ＲＣ）は「会員一人一人が活躍する学友会」をモットーに、かつての世話クラブへ奨学期間終了後の活躍を報告するよう全員に奨励したほか、学友の職場を見学し合う“例会”を 10 回以上実施するなど、各個人にスポットが当たるよう工夫しました。技術者であり、「新モンゴル高専」の校長を務めるシルネンさんは、自身が開発したノートパソコンをゲル地区の学校へ寄贈。このように、各自の職業や専門を生かした多様な発案があり、それに賛同して協力する仲間がいて、まさに理想的な組織運営といえます。

私は応援します！

モンゴル国元鉱業大臣
モンゴル国
元駐日全権大使

レンツェンドー・ジグジッド 氏

近年、日本とモンゴルとの関係は戦略的パートナーシップの下、素晴らしい発展を遂げてきました。特に文化交流は、大きな役割を果たしています。日本の米山記念奨学金は、モンゴルの将来を担う多くの若者に、日本で勉学する機会を与えてくださっており、現在、モンゴル人奨学生数は 265 人になったと聞いています。こうした、政府間交流だけでは補えない結びつきは、大変重要です。モンゴル米山学友会はロータリーの精神に基づき、歴代会長の指揮の下で日モ友好親善に資するさまざまな奉仕活動を行っています。私もかつて日本に留学していました。米山学友の皆さんがモンゴルの発展に貢献し、両国関係の懸け橋となって大きく活躍されることを願っています。

ぜひ、絆 in モンゴルへ！

今年 7 月 27 日、2 年に一度、世界の米山学友と日本のロータリアンが一堂に会する「絆 in モンゴル」がウランバートルで開かれます。現会長のオイドブ・バトゲレルさん（2005 － 07 ／前橋ＲＣ、現セルベＲＣ会員）は、「会長として大会を開けることは最大の喜び。夏の大草原で、さまざまな国の米山学友やロータリアンが友情の絆を深め、恩返しができる日になると確信しています。一人でも多くの方に参加してほしい」と呼び掛けています。

モンゴル米山学友会の活動は、日本のロータリアンの奉仕の精神から受け継いだものばかり。現在、モンゴル在住の米山学友の約半数にあたる 45 人が正会員ですが、今後はもっと参加者を増やしていきたいところです。「人と人とのつながり、友情を大切にし、感謝の心を持った活動を広げていきたい」（オイドブさん）。7 月、そんな彼らの生き生きとした姿をぜひ皆さん自身の目で確かめていただきたいと思います。

ロータリー米山記念奨学会事務局

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 3 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会5

タイ米山学友会

人のため、地球のためになる活動を

元ＲＩ会長が設立に尽力

きっかけは2012年5月6～9日の国際ロータリー（ＲＩ）バンコク国際大会。その「友愛の家」に米山記念奨学会がブースを出展することになり、開催の1年前、学友たちに協力を求めたことがタイ米山学友会の設立につながりました。この時の世話役、ウイチット・クラワッタナクルさん（1987 － 88 ／東京浅草ロータリークラブ、以下ＲＣ）が学友約150人に手紙を出し、48人の消息をつかんで、会の立ち上げに至ったのです。

2019年2月の総会にて

その準備段階から、ウイチットさんら中心メンバーと会合を持ち、学友の強い結束を訴えたのが、2002 － 03年度ＲＩ会長のビチャイ・ラタクル氏。12年3月25日にバンコクで開かれた設立総会にも学友29人と共に出席し、バンコクＲＣのスベンソン智江美氏、日本留学経験のあるタイのパストガバナーらゲストと、海外で4番目となる米山学友会の誕生を祝いました。

また、大会期間中の5月6日に開かれた「米山ナイト」に出席したラタクル氏は、力強く次のように語りました。

「タイ米山学友会の設立は、米山梅吉氏がかつて見た夢に向かう小さな一歩です。しかし、それは大きな飛躍であり、今後もっと多くの若者たちが集まり、タイ学友会の友愛、親睦が深まっていくことでしょう」

奉仕を通じた親睦を大切に

それから7年。「米山ナイト」でのラタクル氏の言葉通りにメンバーは増え、現在78人に。初代会長のウイチットさんから2年ごとに役員を改選し、昨年、第4代会長としてペッチ・ポンポーさん（1992 － 94 ／豊橋南ＲＣ）が就任しました。

ペッチさんによると、タイ米山学友会の活動の趣旨は3つ。①会員同士の交流、②人のため、地球のための活動、③ロータリアンとの交流です。「形にとらわれず、人のため、地球社会のために、自分たちの持つ力でできることを積極的に行う。それが、タイ米山学友会の強みです」 設立以来、特に力を入れているのは、環境保護活動と恵まれない子どもへの支援です。

環境保護活動では、海岸清掃（エコキャンプ）や植林活動を実施。家族・友人連れの参加を奨励して、奉仕を通じた仲間との親睦を大切にしています。“米山”ロゴの刺しゅうされたポロシャツを着てビーチのごみを拾う学友たちの姿に、観光客やお店の人

海岸清掃を行う学友たち

日本のローターアクターと植林

海外に 9 つある米山学友会のうち、国際大会を機に設立された学友会が 2 つ。一つは 1989 年のソウル国際大会を機に設立された韓国学友会、もう一つがタイ学友会です。2012 年のバンコク国際大会を前に設立され、学友たちは「友愛の家」に出展した米山記念奨学会ブースで世界のロータリアンに米山の事業を紹介した他、日本のロータリアンを歓迎するために「米山ナイト」を開くなど大活躍しました。最初の米山奨学生はタイから招へいされており、当事業にとってはとても縁の深い国。今回は、そのタイの米山学友会をご紹介します。

たちから、「自分もビーチを大切にし、ごみを捨てないようにしよう」といった感謝の声が聞かれるなど、奉仕の精神を広めることにもつながっているそうです。

昨年 11 月には、研修旅行でタイを訪れた第 2660 地区（大阪府）のローターアクターと、マングローブの植樹（600 本）を行いました。総勢 60 人で心地よい汗を流し、ロータリー家族の輪を広げました。

子どもへの支援についても、学友からの寄付や勤務先の企業などからの協賛を得て、児童福祉施設を訪問して栄養満点の昼食や日用品、電化製品を提供したり、貧しい地域の小学校に学用品や浄水器を贈るなど、これまでにさまざまな活動を行っています。

また、2016 年に複数回の大規模地震に見舞われた熊本、18 年の台風 21 号による大阪の被災地区に向け、メンバーから集めた義援金を送るなど、日本の自然災害の被災者にも深く心を寄せてくれています。

日タイで、慈愛の種を育てましょう

昨年 2 月からは、第 2670 地区の徳島ＲＣと第 3350 地区のバンコク南ＲＣ、ロッブリーＲＣとのグローバル補助金事業にも参加しています。この事業は、タイ中部ロッブリー県にある知的障害者の学校を支援するため、日本の「さをり織り機」を寄贈し、そこで作られた製品を日本で販売して、自立を支援するプロジェクトです（本誌 2018 年 6 月号縦組み P28 参照）。学友会幹事のワシン・テイシャシャイニランさん（2011 － 12 ／東京清瀬ＲＣ）を中心に、学友有志が通訳などのサポートを行っています。

さをり織りを作る学校にて

ワシンさんは「現地への移動に時間がかかり、大人数での参加はできませんが、日本とタイの懸け橋として、社会貢献活動を行うことにやりがいを感じます」

徳島ＲＣの泊健一氏は「事業を始めて 3 年目になりますが、学友に同行してもらうことで、現地の子どもたちと心から打ち解けることができました。われわれが不在の時も活動を支えてくれており、感激しました。まさに米山学友会はロータリーの財産です。世界中にこの大きな財産があることを、日本のロータリアンにぜひ知ってもらいたい」と、熱いメッセージを寄せてくれました。

今後の課題は「学友会に入るのは有意義だと、メンバーにもっと感じてもらうこと」と語るペッチさん。日本のロータリアンに向けては「タイで奉仕活動をする時は、ぜひ当学友会に連絡してください。できる限り支援します」と呼び掛けています。7 年前にタイの地に播かれた慈愛の種は、少しずつ成長し、実を結び始めています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

私は応援します！

2002 － 03 年度
RI会長

ビチャイ・ラタクル 氏

元RI理事で当時の米山記念奨学会理事長の板橋敏雄氏から「タイの米山学友を集めて、学友会をつくりたい」と相談があり、バンコクRCのスベンソン智江美さんと設立に喜んで協力し、活動を見守ってきました。毎年の総会には欠かさず出席したいと思っています。学友会は徐々に発展していますが、未来に向けてアドバイスを一つ。

総会での活動報告について、日本のゲストからの質問や意見を受けましたか?参加者の意見を聞くことが民主主義の原則です。日本人初のRI会長、東ヶ崎潔氏のテーマは “PARTICIPATE！（ 参加し敢行しよう!）”。もっと日本のロータリアンに関与してもらうこと、巻き込むことが重要です。学友の皆さん、ぜひそのためのチャレンジを続けてください。

※ 2019 年 2 月 9 日のタイ学友会総会のあいさつから

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 4 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会6

北関東学友会栃木（第 2550 地区）

今も昔も、ロータリアンと手を携えながら

歴史ある学友会

1970 年代後半になると米山奨学生の数は累計 2,000 人を超え、関係者の関心事は「元奨学生たちのその後の動静を知ること」、そのためには「彼らとの連絡を密にし、同窓会組織の基盤を作ること」へと動き始めました。

初めて正式に発足した米山学友会は、1983 年に台湾で設立された「扶輪米山会」です。台湾では過去に一度、同窓会設立の動きがあったものの、当時の社会事情により実を結ばず、立ち消えとなっていました。再び機運が高まった背景には、80 年に第 255 地区（当時の地区番号は 3 桁、栃木県と茨城県で構成）で結成された独自の同窓会組織「米山奨学生友の会」に台湾支部ができ、台湾における学友の活動が活発になったことが挙げられます。

その後、日本国内にも続々と学友会が誕生。85 年に国内初の学友会「米山奨学生学友会（関東）」が設立されると、第 255 地区米山諮問委員であり、ロータリー米山記念奨学会常務理事でもあった湯原竹之助氏が「わが地区も“米山奨学生学友会（関東）”に入れてもらえないか」と打診。ところが……、元地区米山記念奨学会委員長・関谷直人氏によると「なぜか承認されなかったようです。栃木・茨城も一応関東なんですが（笑）。それじゃ仕方ないということで、翌 86 年に第 255 地区として、学友会を立ち上げることになりました」

こうして同年 11 月 22 日、関東、関西に続く国内 3 番目の学友会として設立総会が開かれ、現在の第 2550 地区の学友会は、「米山奨学生北関東学友会（当時）」として活動をスタートさせました。

地区内ロータリアンの支えがあって

学友会設立から 30 年以上たった今も続く行事が、1 泊での研修旅行。毎年総会を兼ねて行われ、奨学生と学友が最も楽しみにしている行事です。当初は資金不足で、公共施設で寝泊まりする合宿のようなものでしたが、それがかえって心の垣根を取り払い、絆を深めるきっかけとなりました。

その後は全国各地で実施され、そのうち、研修旅行の感想や感謝の気持ちを記した手紙が、関谷氏の元へと届くようになりました。その一通一通に目を通しながら「これを自分一人で読むのはあまりにももったいない。この感動を共有する手段はないものか」と考え、思い至ったのが文集の発行でした。文集『つどい』は、2002 年の第 1 号発行から 3 年に 1 度発行されています。

しかし、こうした活動は主に地区米山記念奨学会委員会

私は応援します！

米山記念奨学会理事
2013－14 年度
第 2550 地区ガバナー

飯村　愼一 氏

当地区は地区米山奨学委員会と米山学友会が密に連携しており、学友会がロータリアンだけではできない役割を果たしてくれています。現役奨学生の最も身近な存在として、米山記念奨学金の持つ意味や、われわれの期待を折に触れて伝え、留学生には少々難しいであろうロータリーに関する理解を助けてくれています。　奨学生にとって、奨学期間後にもこうしたネットワークがあることは、何よりの心の支えになっているはずです。「卒業したら連絡もない」といった声は、学友会の存在、彼らの活動そのものが打ち消していくことでしょう。そして、“平和の懸け橋となる人づくり”が確実に実現されていくという、一つの証明になると期待しています。

栃木県はかつて、茨城県と同一の地区でした。その時代に設立された北関東学友会栃木（第 2550 地区）は国内で関東、関西に次いで 3 番目と歴史が古く、その後地区が 2 つに分かれるなど環境の変化があっても、米山奨学生・学友を支えるロータリアンたちの熱い思いは変わらずに続いています。近年、地区米山記念奨学委員会の組織改革により、寄付増進や地区内への理解促進に加え、学友会へのケアも一層行き届くようになりました。長年、ロータリアンに頼りがちだった学友会も自主的な活動を開始し、まさに好循環を生んでいます。

がお膳立てしたもの。委員会が組織的に機能せず、委員長一人が奔走する年度もありました。元地区米山記念奨学会委員長の恩田光憲氏は「寄付増進や奨学生に関わる事務作業だけでなく、正月に自宅に招待したり……。僕が働き掛けないと学友会もまとまっていかなかった。名簿すらなく、苦労しました」と振り返ります。

文集『つどい』

あとを引き継いだ辻裕司氏は組織改革に着手。奨学生の管理、寄付増進、世話クラブとカウンセラーへのフォロー、学友への連絡など膨大な仕事を組織的にこなすために 3 つの小委員会を設け、役割分担をすることで「学友会へ目を向ける余裕もできた」と語ります。

動き出した自主性

2016 年から鄭仁淑（ジョンインスク）さん（2005 － 06 ／宇都宮 90 ＲＣ）が学友会会長に就任していますが、その前年、米山記念奨学会が主催する全国学友会会長セミナーに参加したことで、「意識が変わった」と鄭さんは言います。

「当時は副会長として参加しましたが、他の学友会が工夫しながら頑張っている姿を見て、自分たちももっと自主的に活動しなくちゃと刺激を受けました」

まず取り組んだのは新年会の開催。奨学生・学友の母国の料理を皆で作り、その国のことを学ぶというもの。昨年はセネガル、今年はベトナム料理を作りました。従来の活動に加え、こうした行事が加わることで、現役奨学生から「もっと集まりたい！」という声が上がるようになりました。その声を反映し、2018 年度にはフラダンスチーム「E Lau Hoa（エ ラ ホア）」が結成され、いずれは地区大会で成果を披露したいと、月 2 回の練習に励んでいます。

縁を絆へ

目下の課題は学友会メンバーをいかに増やすか。奨学期間終了後、県内に残る学友は 1 ～ 2 割。学友会に籍があっても、実際に参加できる学友は決して多いとは言えません。そこで、現・地区学友委員長の小林正明氏は数年前に奨学生・学友・地区米山関係者のインターネット上の交流サイトを開設。双方向のコミュニケーションが格段に増え、“ いつもつながっている”という安心感をもたらしました。「学友会の活動が宇都宮市中心で、参加したくても参加できない学友がまだ多くいる。今後はそうした学友へのフォローを考えていく」と話します。

また、鄭会長は「奨学生が集まる場にできるだけ参加し学友会の楽しさ、魅力を伝えたい。そうすれば他県に行っても、そこの学友会には参加してくれるはず」と、学友会の裾野の広がりにも力を尽くそうとしています。

今後の展望として、地区米山記念奨学会委員長の長正英氏は「奨学生が世話クラブにいるうちに、会員といかに強い関係を結べるかが鍵となる。今年 4 月からサブ世話クラブ制度を始めましたが、8 クラブが手を挙げてくれた。奨学生に関わる会員を少しでも増やしたい」と意気込んでいます。地区米山委員会と学友会がタッグを組み、縁を絆へと育てようとしています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

研修旅行で藍染め体験

学友同士でフラダンスチームを結成

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 5 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 7

第 2780 地区米山学友会

学友会が歩む、新たな道

ロータリーの枠内にとどまらず

2018 年秋、第 2780 地区の地区大会、「友愛コーナー」の一角、「米山お茶サービス」と銘打ったブースが大きなにぎわいを見せていました。地区米山学友会のメンバーたちが率先してロータリアンに声を掛け、それぞれの出身地のお茶とお菓子でもてなします。休憩時間になると、憩いを求めて多くのロータリアンがブースを訪れ、米山奨学生・学友と歓談。“友愛コーナー”の名前通り、交流の輪が広がっていました。

地区大会でのお茶サービス

江の島海岸で清掃活動

今ではよく地区大会で見掛ける米山奨学生のお茶サービスを、全国に先駆けて始めたのは、第 2780 地区です。同地区では長年にわたり、米山奨学生のオリエンテーションを 1 泊 2 日で行っていますが、その際、学友会が運営スタッフとして協力しています。ほかにも「江の島海岸クリーンキャンペーン」や「国際交流会」など、さまざまな地区行事を学友会の主催で実施しています。

学友会の活動はロータリーの枠内にとどまらず、これまでに地区や米山記念奨学会と共催し、外務省などの後援を得て、国際共生の道を提言する市民シンポジウムを開催したこともあります。また、地域の教育委員会の要請を受け、中学校での国際交流授業を行い、ミャンマーのサイクロンや中国四川省地震などの報に触れ、いち早く募金活動を展開。東日本大震災の際には、宮城県の避難所 2 カ所に足を運び、水ギョーザの炊き出しを行い、大量の支援物資を届けました。

停滞する学友会の立て直しに奮闘

オリエンテーションで、奨学生になった段階から学友との絆をつくり、奨学期間後もロータリー活動に活躍する学友へと育てていく――。その重要なパートナーとして、地区米山記念奨学委員会と連携し、多彩な活動に取り組む様子から、“日本一活発な学友会”として、米山のセミナーで度々取り上げられることもありました。

しかし、時がたてば人が変わり、組織も変わっていきます。やがて活動は停滞。学友会行事にも人が集まらなくなっていきました。現・地区米山記念奨学委員長の澤田君雄氏は数年前、地区大会でのお茶サービスの寂しい様子を目の当たりにして、危機感を募らせ、古巣の地区米山記念奨学委員会への復帰を志願し、学友会の立て直しに乗り出しました。

その思いに応え、2017 年 4 月から新会長となったのが、

2018 年の江の島海岸クリーンキャンペーンにて

1985 年に南関東の 7 地区合同でスタートした「米山奨学生学友会（関東）」は、大所帯となったことから、93 年に東京の 2 地区を除いて、各地区単位で活動することになりました。今回ご紹介する神奈川県の第 2780 地区米山学友会も、その際に誕生した学友会です。地区米山記念奨学委員会と連携し、助言を受けつつ基礎をつくり、結束を高め、活動の幅を広げて、全国のモデルとなる学友会となりましたが、やがて活動は停滞。そして 2 年前、多くの関係者の努力によって再生の道を歩み始めました。活発な学友会を目指し、新たな一歩を踏み出した学友たちを、地区のロータリアンたちが温かく見守っています。

宋一大（ソンイルデ）さん（2015 － 17 ／相模原大野ＲＣ）です。「文化の違いは、時に見えない壁になる。奨学生の時にも感じたその壁をなくせば、もっと仲良くなって交流できる。学友会の役員になれば、奨学生の間にうまく入り、見えない壁をなくす手伝いができるのではないか。そう思って、会長を引き受けました」と、宋さんは語ります。

宋会長就任後初の学友会主催行事となった 7 月の「江の島海岸クリーンキャンペーン」には、米山学友・奨学生と家族に加え、インターアクター、ローターアクター、ロータリアンと、前年の 2 倍の 220 人が参加。清掃に汗を流した後は、バーベキュー大会で盛り上がりました。

各国の手料理を楽しみながら交流

11 月の「国際交流会」にも約 100 人が参加。「ロータリアンを手料理でもてなして感謝を伝えたい」と 2005 年に始まった行事です。宋会長は「それぞれの国の料理を通じ、文化的背景を紹介し合う。お互いを理解するのにとても良い機会です」と話し、学友会の最重要行事と位置付けています。

このように参加者が大幅に増えた背景には、澤田氏がガバナー補佐を通じ、各クラブに熱心に協力を呼び掛けたことがあります。「人数が増えれば資金も集まる。それを次の活動に回していけばいい。最終的な目標は、組織としての自立です。奉仕活動で感動を共有し、話題性のある学友会になれば、皆も付いていくでしょう」。また、「学友会を理解するには最低 3 年はかかる」と話す澤田氏。歴代委員長を軸とした学友会の賛助会の立ち上げに向け、準備を進めています。

新しい酒は新しい革袋に

4 月、桜満開の小田原城址公園に隣接する会場で、米山奨学生のオリエンテーションと並行し、第 2780 地区米山学友会の総会が開催されました。再スタートして 3 年目。正会員の学友だけでは人数が少なく、準会員の継続奨学生も副会長や会計として役員に加わります。慣れない進行に議論が続き、予定の時間をオーバーしましたが、澤田氏は言います。「今までは、こういう議論もなかった。まだまだ手を離すことはできないけれど、皆が主体的に関わろうと意見を出すようになったのは、大きな進歩です」

前年度副会長で、今期から正会員となったマハブービ・シェヘラザードさん（2016 － 19 ／茅ヶ崎湘南ＲＣ）は、「意気込みはすごくあります。いずれは自分たちの力でやっていけるようになれば良いなと。今後、財団学友やローターアクターの皆さんとも交流していきたいと、相談を始めています」と、前向きに語ってくれました。

“ 新しい酒は新しい革袋に盛れ”。第 2780 地区米山学友会の再建、さらには発展に向かって、新しいメンバーが目指す先に、また新しい形の学友会が生まれてくるのかもしれません。

ロータリー米山記念奨学会事務局

私は応援します！

米山記念奨学会理事
2010 － 11 年度
第 2780 地区ガバナー

後藤　定毅 氏

学友会のいろいろな活動に触れると、その奉仕の尽力に驚きます。小沢一彦名誉理事長も常日頃、「学友はロータリーの財産であり、今後は世界に広がる学友会のネットワーク化が課題」と語っていますが、奨学会の目的である母国と日本の懸け橋にどうつなげるか、ロータリアンからの善意の寄付がどうしたら多く寄せられるか、そして、世話クラブやカウンセラーとの交流を一過性で終わらせないためにどうすべきか、これらは、ひとえに学友会が活発に活動できるかどうかにかかっているように思います。

わが地区では、社会に出た学友との永続的な関係を築くため、地区米山学友会に「賛助会員制度」を新しく設け、ロータリアンが共に後押しして、幅広く交流ができる場をつくろうとしています。こぞって新時代の学友会に期待します！

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 6 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 8

ミャンマー米山学友会

奉仕できる幸せを実感しながら

ロータリアンと共に支援活動

2019 年 9 月、ミャンマー最大の都市ヤンゴン。緊張の表情を浮かべる 25 人の学生を前に、米山学友が面接官として座っています。その面接は“ 田中作次奨学金”の選考試験で、日本語を学ぶミャンマーの若者から 10 人が、厳正な選考を経て合格通知を手にしました。　同奨学金はその名の通り、元国際ロータリー（ＲＩ）会長の田中作次氏からの寄付金を基金とし、ミャンマー米山学友会が 3 年前に創立したもの。合格者には 1 年間の奨学金の他、学友会が行う奉仕活動に参加したり、日本から訪れるロータリアンと交流する機会が与えられます。今年からはさらに、推薦者の米山学友が「カウンセラー」を務めることになっています。

田中作次奨学金の奨学生を選考

ロータリアンの健康診断を手助け

後発開発途上国のミャンマーは、その歴史的経緯からも、日本のロータリーの支援先として選ばれることが多い国です。今夏、第 2830 地区（青森県）のパストガバナー・関場慶博氏を中心とする有志チームによる「ヤンゴン子供医療支援プロジェクト」では、支援先を米山学友がアレンジし、延べ 1,000 人を超える子どもの健康診断に連日付き添い、医師であるロータリアンの通訳としても奮闘しました。

今年 3 月からミャンマー米山学友会第 2 代会長を務めるケイカイン ウィントゥラさん（2010 － 11 ／京都西ＲＣ）は「協力を呼び掛けられれば、私たちは真心を込めて精いっぱいサポートします。ロータリアンの皆さんには米山記念奨学事業の一つの成果として、世界的ネットワークをぜひ活用していただきたいですし、そのための学友会だと思っています」と熱く語ります。

貧しくとも他者のために

海外から差し伸べられる支援の手に対し、彼らはただ、それらを享受しているだけではありません。イギリスの慈善団体「Charities Aid Foundation」が毎年発表する世界寄付指数ランキングによると、ミャンマーは過去 5 年間の平均で 146 カ国中第 1 位を獲得しており、なんと国民の約 9 割が過去 1 カ月内に寄付をしているということです。熱心な仏教徒の多いこの国は、自分が貧しくとも、他者のためにお金やモノを差し出すのが当然のことなのだそうです。

同学友会も、国内外の会員約 40 人から支払われる入会費と会費
によって、貧しい家庭の子どもが通う僧院学校に浄水器や学用品を贈ったり、学習意欲を高めるために成績優秀者を表彰する活動を独自に行っています。ミャンマー国内で洪水被害が起きれば、学友のネットワークを駆使し、泥水につかりながら孤立した家庭に水を届ける活動もしています。

私は応援します！

2012 － 13 年度
国際ロータリー会長
1994 － 95 年度
第 2770 地区ガバナー

田中　作次 氏

若者に会ったら開口一番、「あなたの夢は?」と聞くことにしています。人生を歩む上で、夢を持つことの大切さを誰よりも実感しているからです。2017 年にミャンマー米山学友会が設立されると聞いて、彼らを応援する気持ちで寄付をしました。それを彼らが奨学金という形にし、ミャンマーの明日を担う若者へ夢を与えてくれています。家が貧しく高校進学がかなわなかった私にとって、これほどうれしいことはありません。

今年、ケイカイン会長が来日した際、学友たちから感謝のメッセージと写真集をプレゼントしてもらいました。ケイカイン会長から直接お礼の言葉を聞き、いかにやりがいを持って活動しているかを知りました。人の喜びが私にとって一番の喜びです。これからも彼らの活動を応援します。

昨年 12 月号から連載している「Close up！ 学友会」シリーズでは、日本全国で 33 団体、海外に 9 団体ある計 42 の米山学友会の中から、毎号 1 団体を選んで紹介しています。今月号は、2017 年に設立された最も新しい学友会、ミャンマー米山学友会をクローズアップ。ミャンマー在住の会員は約 20 人と少ないながらも、日本のロータリークラブが現地で事業を行う際には協同で奉仕活動に尽力するなど、活発な活動を続けています。

きっかけは世界平和フォーラム広島

ミャンマー米山学友会は 2017 年に設立された最も新しい学友会です。設立のきっかけは 2012 － 13 年度、当時のＲＩ会長・田中作次氏が、新世代に焦点を当てた「ロータリー世界平和フォーラム」を世界 3 カ国で開き、そのうち広島での開催にミャンマー出身の米山学友、タン シン ナインさん（2003 － 05 ／東京調布ＲＣ）が参加したことです。平和のために討議する同世代の姿、ミャンマーの未来を真剣に考えるロータリアンとの出会い、その場で掛けられた「いつかミャンマーにも米山学友会をつくって」との言葉が心に残りました。

僧院学校での奉仕活動

これを機に、タン シン ナインさんが所属する東京米山ロータリーＥクラブ 2750 では、日本文化や元日本留学生の体験談をミャンマー国内に紹介するニュースレター『ミンガラバーミャンマー』を発行。取材する学友を探すうちに多くのミャンマーの学友と連絡が取れるようになり、学友会の設立が具体化していきました。

こうして 2017 年 2 月 25 日、タン シン ナインさんを初代会長とするミャンマー米山学友会が誕生。設立総会には、ミャンマーでの奉仕活動のたびに学友を激励してきた第 2750 地区・山の手西グループのロータリアンや、東京米山ロータリーＥクラブ 2750 会員など、総勢約 60 人が参加しました。

米山記念奨学金をもらった本当の価値とは

当初から現在に至るまで、最大の悩みは活動に参加できる学友が少ないこと。しかし、元々ミャンマー出身の学友は累計 200 人弱。帰国せず国外で活躍する学友も多いのが現状です。ケイカイン会長はこの状況を打開すべく、役員会議を毎月開いて話し合ったり、会員身分を広げて人数を確保し、支払いやすい会費を設定するなど、
参画意欲を高める工夫を重ねています。

「私たちは皆、米山記念奨学金のおかげで勉学に集中でき、人生の選択肢を広げることができました。けれども、奨学金をもらった本当の価値とは、米山学友になり、日本のロータリアンと一緒に社会奉仕活動ができ、社会貢献ができることだと思います。このことを一人でも多くの学友に気付いてもらいたいし、社会奉仕活動を通じて、日本のロータリアンとミャンマーの米山学友との絆が深められるような学友会にしていきたい」とケイカイン会長は語ってくれました。ミャンマー米山学友会の挑戦はこれからも続きます。

ロータリー米山記念奨学会事務局

2017 年の設立総会にて

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 11 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会9

第2790地区米山学友会

縦・横・外につながりを広げて

過去最多人数を集めたBBQ大会

9月初めの土曜日、千葉県の幕張海浜公園に何本もの「ロータリーデー」ののぼり旗が翻りました。旗を持つのは第2790地区米山学友会のメンバーたち。2014年から続く「ロータリーデーＢＢＱ（バーベキュー）大会」は、同学友会の恒例行事です。

夏祭りで神輿かつぎ

里山の集いでの流しそうめん

元々は奨学期間後も交流が続くことを願って、学友たちがお世話になったカウンセラーや世話クラブのロータリアンを誘って始めた企画です。初回の参加者は約80人。回を重ねるごとに人数が増え、6回目となる今年は、過去最多の約150人が参加しました。

参加人数が増えただけではありません。3年前からは同地区の全ローターアクトクラブ、財団学友会との共催になりました。今年度は諸岡靖彦ガバナーの方針により「ロータリー学友連絡協議会」が発足し、協議会を統括する青少年奉仕委員会（ロータリー学友担当委員会）がＢＢＱ大会を後援。こうした地区を挙げてのバックアップもあり、“縦・横・外のつながり”を実現する行事に発展しました。

ロータリーの大家族の一員として

今年4月から学友会会長を務める範弘宇（ハンコウウ）さん（2015－16／浦安ＲＣ）は「学友会としての活動はまず、ロータリーに関心のある人に交流の場と機会を提供すること」と話し、ＢＢＱ大会のようなイベントを、学友間の絆を深め、ロータリー家族の一員として活躍するための重要な契機と捉えています。

また、「ロータリーの大家族としての意識を持ち、学友会内に限らず協力することが大切」と、地区ローターアクトクラブ主催のフットサル大会や地区インターアクト年次大会、分区主催の夏祭りでの神みこし輿かつぎ、千葉南ロータリークラブ（ＲＣ）主催の「里山の集い」など各種イベントにも積極的に参加しています。

鈴木荘一地区米山記念奨学委員長は「ＢＢＱ大会や忘年会など、最近は会場に入り切れないほど申し込みがあり、地区でも学友会の活動は注目されています。学友連絡協議会の発足によって、地区の米山委員以外からも意見がもらえるようになり、学友会活動に生かしてもらっています」と話します。

ローターアクターや財団学友会との共催を働き掛けた前地区米山記念奨学委員長（現・ロータリー学友担当委員）の冨一美氏も「海外に興味を持つローターアクターと、日本につい

ロータリーデーBBQ大会にて

近年、ロータリー家族の一員として「学友」の存在が注目されています。米山学友・奨学生で構成される米山学友会ではローターアクトクラブや財団学友会と交流し、共に奉仕活動するなど、組織の枠を超えた連携を強めています。同時に、地区を超えた米山学友会同士の交流も進んでいます。今回紹介する千葉県の第 2790 地区米山学友会も、少しずつネットワークを広げてきました。地区も新たな仕組みを整え、学友会の活動を支えています。

て知りたい米山学友のニーズは合致しています。最初は少しぎくしゃくしていましたが、活動を重ねて徐々にしっくりしてきました」と、手応えを感じています。

次のステップは……

首都圏の米山学友会では近年、総会や行事を訪問し合うなど交流が盛んで、第 2790 地区学友会も役員を中心に他の地区に出掛けています。

きっかけは約 4 年前、石田善一元地区米山記念奨学委員長の橋渡しで、何人かの学友が東京米山友愛ＲＣ（第 2750 地区）が主催する高校生との国際交流イベントに参加し、「他の地区ではこのような活動があるのか」と感動したこと。それ以降、埼玉や東京など近隣の学友会総会に参加するようになり、企画や運営について参考にするようになりました。すると、他地区の学友会メンバーも第 2790 地区学友会のＢＢＱ大会や忘年会などに参加するようになり、学友会創立 25 周年を記念して開いた昨年の「米山の集い」にも出席してくれました。

各国の手料理を楽しみながら交流

このように地区内での横の広がり、さらに地区の外へとネットワークを広げてきた学友会ですが、次のステップは身内、つまり縦のつながりをさらに広げること。行事に参加する米山学友は比較的近年に奨学期間を終えた人が多く、「5 ～ 10 年前、さらにそれ以前の先輩学友に参加を呼び掛けたい」と範さんは考えています。

学友会の成長の先に期待を寄せて

今後も頼りにするのは、やはり“ チームワーク”です。副会長のロバーツ・ドゥウィプトゥラさん（2015 － 17 ／茂原ＲＣ）は得意なチラシづくりと広報で、同じく副会長のアヴァゼ・アボルファズさん（2016 － 17 ／千葉ＲＣ）は抜群の行動力で行事計画を引き受け、活動をもり立てています。その他の理事を含め、毎月1回は電話会議、数カ月に 1 回は理事会を開催し、役員同士のコミュニケーションを図っているそうです。

「学友会が成長すればするほど、家族が増えるような気がします。しかも、目指しているのは QUANTITY（量）ではなく QUALITY（質）。急がず、自分たちらしく、仲間と共に歩んでいきたい」とロバーツさん。

アヴァゼさんは「学友会の一員として、一人一人の強みを生かして、今後もロータリーと日本に恩返しができたらと思います」と、思いを語ってくれました。

サナギから出たばかりのチョウが少しずつ羽を広げるように、第 2790 地区米山学友会は、着実に交流の輪を広げています。その歩みの先に、どのような活動が生まれていくのか、どのような成果が待っているのか、今後の活躍に期待せずにはいられません。

ロータリー米山記念奨学会事務局

私は応援します！

米山記念奨学会監事
2002 － 03 年度
第 2790 地区ガバナー

森嶋　庸吉 氏

当地区では今年度、第 2790 地区ロータリー学友連絡協議会を新設しました。諸岡ガバナーは「ロータリーが世界で良いことをするためには、将来のリーダーとなる青少年の横のつながりが大切」と、青少年プログラムの学友、財団学友、米山学友間のつながりを強化しました。若い世代が連携し、同じ運動体となってロータリー学友間、またロータリアンとの絆を育んでいく方針を掲げています。

地区米山記念奨学委員会も、この方針に沿って米山学友会を積極的に支援しています。ロータリアンによる奨学生、学友への協力によって、学友は大きく成長します。今、世界各国で活躍する学友も、奨学生時代の世話クラブ、そして献身的なカウンセラーに感謝しています。将来、国際親善、世界平和に貢献する学友と米山学友会を、私は応援しています。

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 12 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 10

米山奨学生学友会（兵庫）

アイデアを重ね、活気ある組織へ

設立とその後の危機

国内の米山学友会は、今ではほぼ全ての地区にありますが、かつては関東・関西といった広域のくくりで設立され、活動をしていました。米山奨学生学友会（兵庫）も以前は18年間にわたり、米山奨学生学友会（関西）の一員として活動していましたが、他学友会が次々と独立していく中、「やはり地元・兵庫県で、より多くの活動がしたい」との声が上がり、2004年3月に「米山奨学生学友会（兵庫）」を設立、新たなスタートを切りました。

ベトナムの児童養護施設にて

近年でこそ、ローターアクトクラブやロータリー財団学友会、ROTEX（元青少年交換学生による組織）など、ロータリーが支援する新世代プログラム間の“横のつながり”が強化されつつありますが、第2680地区（兵庫県）では、米山奨学生学友会（兵庫）設立当初から、財団学友会との合同クリスマス会を開いていた他、地区大会での「青少年の集い」や新世代サミットへの参加など、他プログラム修了生との交流の機会が多くありました。

しかし、設立当初の盛り上がりや熱意の持続は難しく、行事が固定化するにつれて参加者が減少し、ついには総会すら開くことができないという事態になりました。09年、第3代会長として田東波（デントウハ）さんが就任した時には、当時のロータリアンの言葉を借りれば、まさに「存続の危機」に直面していたということです。

田会長は、役員会の立て直しや親睦旅行といった行事が再開し、傅建良（フケンリョウ）会長へと引き継ぎました。傅会長はさらなる活性化を図ろうとしましたが、悩みのタネは活動資金。活動が少ないから予算がない、予算がないから活動ができない、学友が集まらない……。懇親会などでは皆が盛り上がる中、地区米山奨学委員長と傅会長が熱心に話し込む姿がありました。

海外へ、他地区へ

15年5月、ネパールに大地震が発生。同国出身の現役奨学生もおり、学友会では手作りの小物を返礼品に、募金活動を開始。恒例行事となっていた4学友会（米山・ロータリー財団・青少年交換・RYLA）の合同総会でも彼らと共に募金活動を行いました。

スリランカで植樹

第2680地区のロータリーデーに参加

もう一つの大きな転機は16年夏。よねやま親善大使のスチッタ・グナセカラさんが同地区を訪れ、「私の母国にぜひ来てください」と呼び掛けました。これに応える形で、七連波（ニエレンポ）会長ら有志が11月にスリランカを訪問。設立されたばかりのスリランカ米山学友会と交流し、スチッタさんが校長を務める日本語学校を見学し、さらに記

国内の米山学友会は、日本国籍を取得した学友を除き、外国人たちが運営する同窓組織です。メンバーの入れ替わりが激しい上、国籍も多様であることから、いずれの学友会もその活動に浮き沈みがあるのが実情。「米山奨学生学友会（兵庫）」もその一つ。参加学友をいかに増やすかという課題は現在も抱えていますが、地区米山奨学委員会との密接な関係づくりと、海外や近隣地区学友会など外へ目を向けることにより、着々と活性化への道を歩んでいます。

念植樹を行いました。これを機に、ベトナムの児童養護施設を訪れるなど、2 年に 1 度、海外での奉仕活動も行うようになったのです。

兵庫県は、都道府県別で 7 番目に人口が多く、大学も多いことから、学友を集める苦労はないだろうと思われるかもしれません。学友会が把握する会員数は 19 年現在約 210 人。しかし、各行事の参加者は最大でも 20 人弱。会員の多くは 30 ～ 40 代で、仕事も家庭も忙しく、学友会活動のある休日は、子どもの行事や習い事と重なってしまいがちです。

「参加人数を目標にしたらどんどん苦しくなる。他と比べて一喜一憂することなく、工夫してやっていきたい」と、会長就任 3 年目の河本春実会長。工夫の一つは、第 2640 地区（大阪府・和歌山県）との交流活動。どちらも集まる人数が少ないという悩みを抱えていることから、誘い合ってウオーキングを楽しんだり、新年会を開いたりしています。

奨学生とロータリアンとの橋渡し役

1 回当たりの参加者数は少なくても、活動の数は驚くほど多く、2018 － 19 年度だけで 25 回。伝統行事となっている学友会主催研修旅行は、現役奨学生も心待ちにしている行事です。また、米山セミナーや奨学生オリエンテーションなど、地区米山奨学委員会が主催する行事には必ず手伝いとして参加し、存在感を高めています。

「10 年前に比べ、今の学友会は目に見えて活性化していると感じています。皆の努力、そして歴代の地区米山奨学委員長・委員が所属クラブの奉仕活動に誘ってくれたり、手伝いをしないかと声を掛け、居場所をつくってくれたおかげ」と、傅さんは感謝しています。

ロータリアンも参加し、ギョーザで新年会

その言葉通り、学友会の強みは、「現役奨学生と地区米山委員会をはじめとするロータリアンとの橋渡し役」と、分析する河本会長。「現役奨学生がロータリアンに言いづらい相談を受けることもあります。“ 学友会がなければ地区米山奨学委員会が成り立たないね”と言ってもらえるよう、これからも奨学生と奨学委員会を支えていきたい」と、話します。

地区米山奨学委員長の秦紳一郎氏は、学友会へさらなる期待をしています。「今、彼らにできる精いっぱいのことをしてくれており、感謝しています。今後の目標として、年に一度、米山単独で総会を開催し、役員以外の学友にも学友会運営に参画できる機会があればと思います。また、これは学友全体への意識改革として、ボランティアをするにも費用負担が避けられないことを理解してほしい。何事も、熱心に活動すればするほど時間と金はかかるもの。しかし、必ずそれに見合うだけの経験と人のつながりを得ることができるはずです」

ロータリー米山記念奨学会事務局

私は応援します！

米山記念奨学会
常務理事

2014 － 15 年度
第 2680 地区ガバナー

滝澤　功治 氏

当地区学友会の活動で特筆すべきは、海外の学友との交流事業であろう。2016 年 11 月にスリランカ米山学友会を訪問し、当時よねやま親善大使をしていたスチッタ・グナセカラさんが設立した「別府日本語学校 in スリランカ」の校庭に、マンゴーの木を植樹した。この活動には私も参加したが、まさに「日本と母国の懸け橋になる」という米山の理想の実現を肌で感じ、学友たちも深い感銘を受けたと思う。さらに 18 年 9 月にはベトナムを訪問し、同国の学友と交流している。米山奨学生が卒業後に就職するのは東京や大阪が多く、必然的にそれ以外の地区は米山学友が少なくなるという現実があり、わが地区も例外ではない。しかし、兵庫の学友の活動は、そのようなハンディキャップを跳ね返すだけのアイデアと実行力があると感じている。

本稿は、『ロータリーの友』2020 年 1 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 11

マレーシア米山学友会

思いをつないで歩む先にあるもの

在日学友との交流を大切に

鮮やかに色づいたイチョウ並木を望む東京・渋谷のマレーシア料理店に集まったのは、マレーシア人の米山学友と、第 2750 地区（東京都・北マリアナ諸島・グアム・ミクロネシア・パラオ）米山学友会の理事たち、第 2590 地区（神奈川県）米山学友会会長と同地区米山記念奨学委員会のロータリアン、そして、マレーシア学友会会長の黄麗容（ウォンライヨン）さん（2001 － 04 ／横浜泉ＲＣ）。このマレーシア学友会東京懇親会は、黄さんが来日する際に参加者を募り、主に東京近郊在住のマレーシア人学友が集まる恒例のイベントです。林欣怡（リンシンイ）さん（2014 － 16 ／東京昭島ＲＣ）は初回から欠かさず参加。初参加のライ・イーチンさん（2018 － 19 ／神奈川東ＲＣ）は「身近にマレーシア人がいないので、楽しみにして来ました」と笑顔を見せました。4 年目となる今回は、黄さんと親交のあるロータリアンや他の学友会からもゲストを迎え、交流を深めました。このような集まりを定期的に東京で開く狙いは、一人でも会員を増やすため。若い学友はまず日本で働く人が多く、帰国後はクアラルンプールやペナン、ジョホールなど各地に散らばってしまいます。学友会の今後のためには、日本にいる学友とのネットワークづくりが重要、と黄さんは考えています。

恒例のマレーシア学友会東京懇親会

最初の奉仕活動で、子どもたちにバッグを寄贈

きっかけはソウル国際大会

マレーシア学友会設立の機運が高まったのは、2016 年のソウル国際大会がきっかけでした。米山学友も「ロータリー学友」として参加できるようになり、地元の韓国はもとより、世界各地から多くの米山学友が参加。開会式前夜の「米山学友合同懇親会 in ソウル」では、各国の学友会ごとに登壇し、歌を歌ったり、ダンスを披露したりと大いに盛り上がりました。マレーシアから参加した黄さんはその光景に衝撃を受け、帰国するとすぐ学友会設立に向けて始動。国際大会で知り合った現役奨学生のチュアー・チー・シェンさん（2015 － 17 ／真岡ＲＣ）とリ・アリシア・ジア・ペイさん（2016 － 17 ／秦野中ＲＣ）の協力を得て、まずインターネット上に Facebook のページを立ち上げて、ペナンにいる米山学友を探し、3 カ月後の 9 月 12 日、21 人の学友で創立総会開催にこぎ着けたのです。

昨年2 月の年次総会にて

立ち上げまでの期間は短くても、組織としての永続性にはこだわりました。理事たちで検討を重ね、煩雑な手続きをいとわず、法人としてマレーシア当局に登録を果たすと、2017 年 2 月にはペナンで創立記念パーティーを開催。黄さんの出身地区である第 2590 地区米山記念奨学委員会やソウルで親交

マレーシア出身の米山奨学生数は累計 975 人（2019 年 7 月現在）。近年、留学生が急増しているベトナムに抜かれて現在は 5 番目になりましたが、長い間、中国、韓国、台湾に次ぐ多さでした。「そのマレーシアに学友会がない……。このままではマレーシア人は恩知らずと思われ、後輩たちにも悪影響ではないか？」。その危機感も手伝って、学友・奨学生たちが奮起して設立させたのが、マレーシア学友会です。創立から 3 年、その活動は親睦から奉仕へと、着実に成長を遂げています。

を深めた韓国学友会、台湾学友会、関西学友会（第 2660 地区）などからも多数の出席者を迎え、門出を盛大に祝いました。

環境保護を活動の柱に

それから 3 年の間に、学友会は「親睦から奉仕」へと、新たなステージに進みました。最初の奉仕活動として、支援の必要な子どもたちに通学バッグ 40 個を寄贈。意義ある活動でしたが、限られた役員しか関われないことに物足りなさを感じ、「全会員が参加できること」を模索し、今年度から始めたのが環境保護の取り組みです。

海岸清掃には学友の家族も参加

三方を海に囲まれたマレーシアにとって、海洋プラスチックごみは喫緊の課題。実際、昨年の 8 月と 11 月の 2 回にわたり、ペナンの海岸近くにある人気商業エリアの遊歩道で清掃を行うと、プラスチックごみの深刻さが身に染みて分かったそうです。同時に、自分たちがごみを拾う姿が地域の人たち、特に子どもたちへの啓発になると感じました。「環境教育こそがごみ問題の根本的な解決策」と、参加者全員の思いが一致しました。この活動には、首都クアラルンプールからも会員が家族連れで参加し、親睦にも大いに役立ちました。「誰にとっても身近で切実な“環境”というテーマを活動の柱に、地元のロータリークラブなども巻き込んで、社会へのインパクトを強めていきたい」と考えています。

次の世代のためにも

昨年の年次総会は、初めてクアラルンプールで開き、新たにペナン、クアラルンプール、ジョホールからの理事が 2 人ずつ選出されました。これでペナン中心だった学友会が、マレーシア全土へ広がる体制が実現しました。

私は応援します！

2019 – 20 年度
第 2590 地区
米山記念奨学委員会米山学友委員長

小野邊　薫 氏

当地区でお世話した黄麗容さんが会長を務めると聞き、米山記念奨学委員会有志で 2017 年 2 月のマレーシア学友会創立記念パーティーに出席しました。そこで感じたのは、黄さんの熱意と、これから自分たちでつくり上げようという学友たちの若いパワー。以来、マレーシア学友会の成長を見守り、応援しています。

黄さんが Facebook で小まめに学友会のニュースを発信してくれるので、それを地区で紹介するのも楽しみです。地域を超えて共に活動し、学友会の存在をアピールしたいという黄さんの思いに応え、これからも協力していきたいと思っています。当地区学友会もクリーンウオークなど、環境保護活動に取り組んでいるので、今後、一緒に活動できればいいですね。とにかく、これだけは言わせてください。

米山のファミリーは最高です！

黄さんは、活動を続ける原動力について、「自分たちのためではなく、次の世代のため」と語ります。「米山記念奨学金は、当たり前にそこにあったお金ではなく、天からポンと降ってきたものでもない。地区の米山委員の皆さんが、どんな思いを持って、一生懸命に寄付を集めてくれたか、私は見てきました。だから、私たちの活動をロータリアンに知ってもらい、私たちを支援してよかった、寄付したことが有意義だったと思ってもらえるよう、努力を重ねたい。また、そのことが次の世代を育てることにもつながると思っています。そこにやりがいと意義を感じます」

総会にロータリアンが参加してくれたり、学友会の Facebook の投稿に「いいね！」をしてくれたりすることも、大きな励みになるそうです。これからのマレーシア学友会の活動に、ぜひ温かな応援をお願いします。

ロータリー米山記念奨学会事務局

本稿は、『ロータリーの友』2020 年 2 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 12

スリランカ米山学友会

亡き会長の思いを乗せて

設立への働き掛けは日本から

現在、海外には 9 つの国・地域に米山学友会がありますが、設立のためには① 20 人以上の米山学友を集める、②会則・役員組織を定める、③年 1 回以上の会合を開く、④ロータリー米山記念奨学会常務理事会の承認を得る、といった条件と手続きがあり、特に①の学友を集めることが最大の関門となります。

そもそも学友会の存在がこれほど重要視されるようになったのは、板橋敏雄氏が理事長に就任した 2007 年以降のこと。それまで海外には台湾と韓国にしかなかった学友会が、中国(09 年)、タイ（12 年）、ネパール（13 年）、モンゴル（14 年）と次々に設立され、母国に戻った米山学友たちの“その後”が、日本のロータリアンの目に触れる機会も多くなっていきました。

2009 年から第 2530 地区（福島県）の福島グローバルロータリークラブ（ＲＣ）創立会員となり、同地区米山学友会の会員の一人であったチンタカ・クマーラ・ウィジェシンへさん（1997 － 98 ／郡山安積ＲＣ）は、各国にできた米山学友会が紹介されるたびに、「母国スリランカにも……」という決意を固めていきました。

2016 年6 月の設立総会にて

当時、同地区にはスリランカ出身の学友が 4 人、九州にも仲間がいました。日本を拠点とする彼らが母国と日本を行き来しながら、また、東京の米山記念奨学会事務局に足を運んで説明を受けながら、少しずつ仲間を増やしていったのです。設立への仕掛け人がスリランカ在住の学友ではなく、日本にいる学友という点で、やや特異な滑り出しでした。

ラビンドランＲＩ会長年度に設立を

一番の苦労は「連絡先が分からない学友が多く、連絡が取れても半数以上が学友会設立の必要性を理解してくれなかったこと」とチンタカさんは言います。

連絡先について、米山記念奨学会には奨学生や学友がウェブ上でログインし、各自の情報を入力できるシステムがあります。誕生日など折に触れてメールを送り、更新を呼び掛けていますが、更新しない学友も多いのが実情です。探し当てた一人一人に、「日本とスリランカの国際奉仕活動をつなぐのは米山学友の使命。そのために学友会が絶対に必要となる」と説得して回りました。

当時、第 2530 地区米山奨学委員長を務めていた加藤義朋氏も彼らの夢を応援したいと、2016 年 3 月にコロンボＲＣなどスリランカのクラブで例会に出席し、日本のロータリーが

私は応援します！

第 2530 地区
米山記念奨学会
学友委員会委員長

磯目　基嗣 氏

「スリランカに学友会をつくり、その活動を通してロータリーに恩返しをしていきたい」というチンタカさんの熱い思いを受け、地区として応援すべく、スリランカ米山学友会設立準備委員会が設置されたことを思い出します。記念事業として、当地区国際奉仕委員会から小学校へテレビシステムを、中高一貫校へパソコンを 2 台提供し、その後、第 2620 地区米山学友会とスリランカ学友会が行う医療支援活動に当地区学友会が便乗する形で参加しました。

日本のロータリアンによる国際奉仕事業の橋渡し役として、海外の米山学友会の役割は、今後ますます大きくなるでしょう。私たち日本のロータリアンが積極的に海外学友会へ働き掛け、奉仕の機会を模索していくことが、海外学友会の活性化へつながると確信しています。

スリランカ初の国際ロータリー（ＲＩ）会長となったＫ．Ｒ．ラビンドラン氏の年度のラストを飾るかのごとく、2016年６月25日、スリランカ米山学友会は設立されました。きっかけは日本にいるスリランカ出身の米山学友と、彼らの熱意に動かされた第2530地区のロータリアンらの尽力によるもの。しかし、組織としての活動が軌道に乗る前に、会長の急逝という不幸に見舞われました。昨年６月から新体制となった同学友会は、ラビンドラン氏の会長テーマ「世界へのプレゼントになろう」を合言葉に再出発を誓います。

つくり育てた米山記念奨学事業について力説し、協力を仰ぎました。

そして16年６月25日、スリランカ初のＲＩ会長、Ｋ．Ｒ．ラビンドラン氏の会長年度に間に合う形で、海外７番目となるスリランカ米山学友会が設立されたのです。

医療キャンプで健康診断を実施

視力を測定し、必要なら眼鏡を提供

会長の急逝

初代会長には、首都コロンボから車で１時間ほど離れた町で幼児教育に従事するラクナース・ガマゲさん（1993－95／宇部西ＲＣ）が就任。設立総会には学友約30人の他、スリランカが所属する第3220地区のガバナー夫妻（当時、以下同）、在スリランカ日本国大使、米山記念奨学会から小沢一彦理事長、第2530地区や第2700地区（福岡県）のロータリアンが駆けつけ、ラビンドランＲＩ会長からの祝辞も披露されました。

設立後は、スリランカを訪れた日本のロータリアン、また、第2680地区（兵庫県）や第2620地区（静岡県・山梨県）の学友会との交流や、母国での豪雨災害被災地の支援や中高生への講義など、個々のメンバーの専門を生かした活動を続けていましたが、国内外の学友が一緒に参加する機会はなかなか設けることができません。

学友が若者たちに向けて講義

さらに約２年が経過した18年の夏、ラクナース会長が急逝したとの連絡が入りました。旅行先での突然の死でした。まだ50歳の若さ、誰もが信じがたく、学友会の活動は休止せざるを得ませんでした。

「世界へのプレゼントになろう」を合言葉に

19年８月、ラクナースさんが経営していた幼稚園に、人があふれていました。６月に久しぶりの総会を開催し、ニシャンタ・ロハン・サマラシンハ会長（2002－05／飯塚ＲＣ）をはじめとする新しい顔ぶれで再スタートを切ったばかりのスリランカ学友会が、ラクナースさんの一周忌に合わせて医療キャンプを実施することになったのです。医師として活躍する学友が中心となり、近隣の貧しい村の住民に声を掛け、身体測定、血液検査、視力検査、問診をした上で、必要な薬や眼鏡を渡しました。ラビンドラン氏の会長テーマであった「世界へのプレゼントになろう」を具現化する活動。壁には、ラクナースさんの笑顔の写真を掲げました。

設立して４年。「会合や活動に来てくれる学友をもっと増やさなければならないと感じています。それには、地道な活動を続けて、仲間を広げていくしかありません。将来は、日本のロータリアンから、海外で奉仕活動を行う時に、パートナーとして率先して選んでもらえるような学友会にしていきたい。なお、今年は６月20日に総会を開催します。日本のロータリアンの参加をお待ちしています」と、ロハン会長は語っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

本稿は、『ロータリーの友』2020年３月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 13

ネパール米山学友会

日本から託された善意をつないで

在日学友の連携で設立を実現

前号の「よねやまだより」で紹介したスリランカ米山学友会同様、ネパール米山学友会の設立のきっかけも、日本に住むネパール人の米山学友からの働き掛けでした。

関西米山学友会（第 2660 地区）メンバーのマノハル・ラル・シュレスタさん（2001 － 02 ／大阪大淀ＲＣ）は、在日学友と帰国した学友が連携して社会に貢献するため、同じ大阪在住のネパール人の米山学友、ディネス・シュレスタさん（1991 － 92 ／宝塚武庫川ＲＣ）と協力して、母国ネパールに米山学友会をつくるべく始動。東京でも、東京米山友愛ＲＣ（第 2750 地区）会員のギリ・ラムさん（1998 － 2000 ／室蘭ＲＣ）がネパール米山学友会の設立を目指していたことからタッグを組み、日本在住のネパール人の米山学友や母国の学友とコンタクトを取り、米山学友会の会則整備や創立会員の勧誘に力を尽くしました。

2013 年の創立総会にて

そして迎えた 2013 年 10 月 19 日、首都カトマンズ市内で開催されたネパール米山学友会の創立総会には、マノハルさんやギリさんを含むネパールの米山学友 15 人と、日本のロータリアンや関西米山学友会役員ら 11 人、在ネパール日本国大使館一等書記官ら来賓を合わせた約 40 人が出席。初代会長には、ネパールの国立トリブバン大学で水文地質学教授を務め、カトマンズＲＣ会員でもあるスレス・ダス・シュレスタさん（1994 － 96 ／大阪阪南ＲＣ）、副会長には同じトリブバン大学植物学教授のビジャヤ・パントさん（1995 － 97 ／広島東南ＲＣ）、そのほか 5 人の役員が選任されました。

スレスさんは、当時の感動を次のように述懐します。

「ロータリー米山記念奨学会とネパール米山学友会のメンバーから寄せられた信頼を誇りに思うとともに、学友会設立の目的が果たせるよう力を尽くしたいと、会長を引き受けました。はるばる日本からたくさんのロータリアンが創立総会に来てくれたことが何よりうれしく、私の人生において忘れられない日になりました」

地震をきっかけに芽生えた助け合いの心

その喜びの日から 2 年半後の 2015 年 4 月 25 日、ネパール西部を震源とする大地震が発生。カトマンズ盆地をはじめ各地で多くの家屋、建造物が倒壊し、多数の死傷者が出ました。2011 年に東日本大震災で甚大な被害を受けた日本の人々にとって、大地震で大切な家族や家を失い、途方に暮れるネパールの人たちの苦しみは他人事ではなく、「ネパール

私は応援します！

2019 － 20 年度
第 3292 地区ガバナー

キラン・ラル・シュレスタ氏 氏

日本のロータリアンによるロータリー米山記念奨学会が、外国人留学生に奨学金を支給してくれていること、さらにはネパール米山学友会が奨学金の支給や医療キャンプの実施といった活動を、ネパール各地、とりわけ地震で大きな被害を受けた地域で行っていることを知り、とてもうれしく思います。米山記念奨学事業のコンセプトは、相互交流を助けることだと聞きました。より良い社会の形成に貢献する、この“米山”のようなプログラムを、世界のロータリーが始めるべきだと思います。また、世界各国に米山学友会が誕生すれば、この事業の素晴らしい使命を果たすことにつながっていくでしょう。ネパール米山学友会がこれからも活動を続けてくれることを願います。必要なサポートがあればネパールのロータリアンたちは喜んで提供します。

遠い異国で大地震が発生。その復興を応援したいと思ったとき、皆さんならどうしますか？2015 年 4 月のネパール大地震では、その被害の大きさに心を痛めた日本各地のロータリアン、米山学友や奨学生から支援の声が上がりました。その思いの受け皿となったのが、ネパール米山学友会（略称：RライサンＹＳＡＮ= Rotary Yoneyama Scholars'Alumni Nepal）です。日本から送られた義援金をもとに、同学友会では現在に至るまで、地震で被災した若者たちへの奨学事業をはじめ、さまざまな支援活動を続けています。

に義援金を送りたい」と希望するロータリアンや学友からの問い合わせが、米山記念奨学会に相次いで寄せられました。とはいえ、海外への送金には高い手数料や煩雑な手続きがあり、そもそもどこに送れば現地に確実に届き、適正に使われるのか、見極めなければなりません。そこで信頼できるパートナー役を担ったのが、ネパール米山学友会でした。

当時、学友会の副会長で、現在は第 2 代会長を務めるビジャヤさんは、「私たちネパール学友会メンバー全員の生まれ故郷と家族が被災しました。もちろん最初は、大きな精神的痛手を負いましたが、やがて何人かの学友が集まり、被災者のために何をすべきかを話し始めました。地震の発生によって、助け合いの精神が学友一人一人に芽生えたのです」

ネパール米山学友会では、米山記念奨学会を窓口として集まった日本からの義援金をもとに、仮設住宅などを建設する計画を進めました。

持続可能な奨学事業をスタート

同年 8 月の受付締め切りまでに、主に日本全国の地区、クラブ、個人、さらに米山奨学生と学友、学友会からの寄付も加わり、当初予想の 2 倍を超える 1,400 万円以上の義援金が寄せられました。金額が予想以上に多く、また、時間の経過とともに現地で求められるニーズも緊急支援から中長期的な支援へとシフトしていたことから、ネパール米山学友会は当初の計画を練り直し、まずは被災学生への奨学金事業に着手することにしました。

医療キャンプで歯科検診

4 ～ 12 年生（8 ～ 16 歳）の被災者を対象に新聞広告で奨学生を募集。学友会の役員が審査に当たり、150 人以上の応募者から 22 人に奨学金の支給を開始しました。この奨学制度では支給開始学年から 12 年生（日本の高校卒業年に相当）の課程修了までの支援を約束。義援金からの 350 万ルピー（現在の日本円で約 340 万円）を基金に、その利子収入で継続的に支援しており、これまでに 6 人が無事卒業を果たしました。今年は継続も含め、30 人の奨学生を支援していく予定です。

この奨学事業以外にも、ネパール米山学友会ではメンバーそれぞれの専門分野を生かし、被災した村への医療キャンプや農業指導者訓練の実施、野菜の集荷センターや公衆トイレの建設など、日本から寄せられた善意の義援金をもとに、さまざまな支援活動を行っています。

現在の奨学生と、新会員を含む学友会メンバーで記念撮影

「日本からの支援に心から感謝しています。いただいた寄付は、適切に必要な人たちのために使わなくてはならないと考え、私たち学友会はそのために頑張っています」と語るビジャヤさん。会員が少なく、活動に割ける時間が限られていることから年次総会もなかなか開催できませんが、ネパールの学友たちは、学友会設立の目的を達成するため、これまでも、これからも社会貢献に努めていきます。

ロータリー米山記念奨学会事務局

本稿は、『ロータリーの友』2020 年 4 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

CLOSE UP！ 学友会 14

韓国米山学友会

日韓を結ぶパートナーたち

海外で 2 番目の歴史ある学友会

韓国米山学友会は、海外では台湾に次ぐ歴史ある学友会です。学友会設立に向けた最初のアクションは 1979 年。この年にソウルで「国際ロータリーアジア地域大会」が開かれ、日本から大勢のロータリアンが参加しました。大会に合わせて集まった韓国の米山学友たちが同窓会を結成したものの、いつしか立ち消えに。

10 年後の 1989 年 5 月、再び機会が訪れました。ソウルで開催された第 80 回ロータリー国際大会 2 日目の夜、60 人を超える米山学友が日本のロータリアンのために歓迎会を開いたのです。この席上で同窓会結成の申し合わせがあり、6 月 17 日、林隆義（リムユンウィ）さん（1977 － 78 ／京都西南ＲＣ／ 1997 － 98 年度第 3650 地区ガバナー）を会長とする「韓国ロータリー米山記念奨学学友会」が正式にスタートしました。

しかし、親睦会、総会などは時折開催されたものの、創立 10 周年の時点でも会員の名簿作成が最大の課題とされる状況に、日本の米山関係者は次第に憂慮を抱き始めました。

2000 年からは、学友会が上級研究員の募集・選考をして日本に送り出す役割（現在の海外学友会推薦ロータリー米山記念奨学金）を担うことになり、さらに 2010 年に第 4 代会長の柳京子（リュウキョンジャ）さん（1981 － 83 ／北茨城ＲＣ／ニューソウルＲＣ会員）就任以降、定期総会が再開され、学友会ホームページが整備されましたが、“活発”とまでは言えない状況が続いていました。

強いリーダーシップによる改革へ

2013 年の総会で、全炳台（ジョンビョンテ）さん（1980 － 83 ／仙台北ＲＣ／ソウルブーストコリアＲＣ創立会長）が第 5 代会長に就任。休眠状態にあった母校の東北大学韓国同窓会を立て直した手腕が買われ、同窓生の米山学友が全さんを推薦したのです。

実は「韓国米山学友会の存在すら知らなかった」という全さん。会長に就任し、見えてきた問題点は、①学友会行事に参加する会員があまりにも少ない、②役員の活動が不十分、③連絡可能な会員が少ない、④活動のための予算が足りない、というものでした。

まず①について、学友会の存在を知ってもらい、仲間を増やすために、毎年、韓国に帰ってきた学友の歓迎会を開いたり、日本留学経験者に出会えば米山学友かどうかを確認するなどを徹底。今年からは試験的に「支部」を作ります。韓国国内だけでなく、日本にも支部を設置することで、いずれ韓

私は応援します！

2019 － 20 年度
第 2750 地区
米山記念奨学委員長

澤田　尚史 氏
（東京神宮RC）

韓国米山学友会の卓越したリーダーである全炳台会長は、就任以来、各国の学友会行事に参加しながら、良いと思うことは積極的に導入してきました。台湾の学友会が日本人留学生に奨学金を設けているのを知って大きな刺激を受け、すぐに韓国学友会でも実施したとのエピソードには驚かされます。昨年 11 月、私は韓国学友会の総会に参加し、奨学金授与式で 3 人の日本人留学生がスピーチするのを聞きました。日本人を応援してくれる韓国の米山学友と、将来の日韓の友好関係に貢献するであろう日本の若者たちの姿に深い感銘を受けました。近年の政治的な日韓関係と比べ、韓国学友会の皆さんと接するときは全くの別世界であり親愛の絆を感じます。彼らは信頼できる友人であり、今後も日韓の懸け橋となって活躍すると確信しています。

韓国米山学友会は 1989 年、海外で 2 番目に設立された歴史ある学友会です。韓国出身の米山学友は現在約 4,500 人と中国に次いで多いものの、長く活動が低迷していました。2013 年に会長に就任した全炳台（ジョンビョンテ）さんは、強いリーダーシップでさまざまな改革を打ち出しています。韓国で学ぶ日本人留学生への奨学支援事業もその一つ。学友からの寄付により、2016 年から累計 11 人の日本の若者に奨学金を支給しています。韓国の米山学友は日韓を結び、さらに次世代の懸け橋となる人を育てています。

国へ帰国する学友のパイプ役になると期待しています。

②については、役員の数を増やし、学友会への参画意識を持たせました。2 カ月に 1 回は役員会を開き、顔を合わせた交流を増やした結果、今では毎回 15 人ほどが役員会に参加するようになりました。

③はＳＮＳ（会員制交流サイト）により、連絡手段の問題をほぼ解消。④は役員が率先して会費を納め、担当役員を置いて会費を徴収。そして集まった会費全額と同額を全会長が寄付し、予算を確保しています。

学友の心を結集！日本人留学生への支援

米山学友会会長が集まるセミナーに参加したことをきっかけに、他国の学友会とのつながりも生まれています。そうした機会に、台湾米山学友会が日本人留学生に奨学金を与えていると聞かされた全会長は、衝撃を受けました。「台湾は韓国よりも学友数が少ないのに、どうしてそんな活動ができるのか！」

全会長は帰国後すぐに学友会役員を集め、自分たちも韓国で学ぶ日本人留学生を支援しようと提案し、賛同を得ました。そして 2016 年から毎年 2 ～ 3 人、韓国の大学・大学院で学ぶ日本人の若者に奨学金を授与しています。「まだ少ない人数しか支援できませんが、今後拡大していきます。2020 年の新役員会では、役員と一般会員それぞれに奨学事業のための寄付目標額を定め、積極的に寄付していくことを決めました」

日本人の留学生たちに奨学金を授与

いつかは米山学友を中心とするクラブを

近年の特筆すべき活動として、2016 年のソウル国際大会が挙げられます。同大会では米山記念奨学会の出展ブースに協力し、学友たちが交代で訪れた人たちに日本の米山記念奨学事業をＰＲしました。

さらに他の学友会と合同で「学友合同懇親会 in Seoul」を企画。ソウルに集まった世界各地の学友 165 人と、日本のロータリアンや家族を含む総勢 333 人で絆を深めました。これが後に、感謝 in 熊本（2017 年）、絆 in モンゴル（2019 年）といった、全世界の“米山”の集いへとつながっていくのです。

日韓関係は山あり谷あり。民間交流の穏やかな波も、時に国家間の荒波にのみ込まれそうになることがあります。「韓国では、日本の奨学金を受けたことを隠さねばならないらしい」と、日本のロータリアンの間で噂されることも。

学友の研究を知るワークショップ

今回、全会長が会員約 100 人が参加するグループメッセージで問いかけたところ、全員が口々に「心外です」「米山学友であると隠したことはないし、恥ずかしいと思ったことすらない」「誇りに思っています」と、即答したそうです。

韓国米山学友会をより強固な組織へと発展させて後輩に引き継ぎ、いつか米山学友を中心とするロータリークラブ、「Misan（米山）ＲＣ」を設立するのが、今の全さんの目標です。

ロータリー米山記念奨学会事務局

本稿は、『ロータリーの友』2020 年 5/6 月合併号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

特集 米山月間

モンゴルで強く固く結ばれた絆

「絆 in モンゴル」開催リポート

7月27～28日（2019年）の2日間、モンゴルの首都ウランバートルにおいて、米山学友による第2回世界大会「絆 in モンゴル」（モンゴル米山学友会主催）が盛大に開催されました。

発端は2年前。2017年8月に米山記念奨学会の財団設立50周年を祝し、世界の米山学友が集まって開催された「感謝 in 熊本」大会で、今後も2年に一度、世界各地から米山学友が一堂に会すことを申し合わせ、その際、次の開催地がモンゴルに決まりました。バトンを受けたモンゴル米山学友会は、初代会長のジャンチブ・ガルバドラッハさんが実行委員長となり、メンバー総出で2年をかけて準備を進めました。その熱意が功を奏し、今大会には世界16の国・地域出身の学友、ロータリアン、家族など、総勢548人が登録。モンゴル以外からの参加者は383人に上りました。

学友では、次の開催地である台湾米山学友会から家族を含めて37人。まだ正式な学友会のないベトナムからも、ホーチミン市で活動する学友グループの6人が参加しました。日本のロータリアンは米山記念奨学会の理事長、名誉理事長、理事、評議員、さらにガバナー、ガバナーエレクト、パストガバナーを含む200人以上が出席。「新モンゴル学園」を応援している宮城県の名取ロータリークラブ（RC）や現モンゴル米山学友会会長の世話クラブである群馬県の前橋RC、モンゴルで奉仕事業を行う大阪東RCなど、モンゴルと縁の深いクラブの団体参加も目立ちました。愛媛県の大洲RCと八幡浜RCは昨年の西日本豪雨の際、ジャンチブさんが所属するフレーRCの義援金を届けに来てくれたことに感謝し、返礼の気持ちで参加を決めたそうです。迎えるモンゴル側の登録者は165人。モンゴル国内の学友や家族が90人以上参加した他、多くのロータリアン、現職の外務大臣や在モンゴル日本大使も出席し、式典の様子は現地のニュース番組で放送されました。「米山月間」の今月は、過去最大規模の学友会主催イベントとして米山記念奨学会に新たな歴史を刻んだ「絆 in モンゴル」について報告します。

横断幕で熱烈歓迎

7 月 26 日午前 1 時過ぎ。チンギスハーン国際空港に臨時便が到着。乗客のほとんどは、「絆 in モンゴル」に参加するために現地入りした日本のロータリアンと学友、その家族や友人ら約 120 人です。深夜とは思えないほど人と荷物でごった返す空港の到着ロビーには、「Welcome to Mongolia」の横断幕を持って駆け付けたオイドブ・バトゲレル会長をはじめ、多くのモンゴル米山学友会メンバーの姿がありました。

この臨時便以外にも、モンゴル米山学友会が大会参加者のために航空会社に交渉して座席を確保した便が 25 ～ 26 日にかけて日本、韓国、香港から続々と到着。そのたびに学友会のメンバーが盛大に出迎えました。初めてモンゴルを訪れた学友・ロータリアンも、彼らの姿に安心感を得たのではないでしょうか。旅の幕開けから、現地の学友たちの心温まるおもてなしが始まりました。

君の夢は私の夢

実行委員会には、事前に参加者からさまざまなリクエストが寄せられたといいます。中でも多かったのが「新モンゴル学園を見学したい」というもの。ジャンチブさんが米山奨学生の時に抱いた夢を、世話クラブの山形北ＲＣを中心に地元市民らが支援し、2000 年にウランバートルに開校した日本式高校は、今や小中高一貫校、子ども園、高専、工科大学を擁する「新モンゴル学園」となり、日本をはじめ世界の国々とモンゴルをつなぐ懸け橋となる人材育成に、貢献しています。

26 日に実施された学園見学ツアーでは、校内見学の後、講堂で歓迎会が催され、夏休み中にもかかわらず多くの生徒が集まり、流ちょうな日本語で司会進行を行い、伝統楽器の演奏や民族舞踊、日本の演歌を披露してくれました。

「君の夢は私の夢」。ジャンチブさん（写真左）が語るこの言葉に勇気付けられ、世界へ羽ばたいた卒業生についても紹介されました。中には、米山奨学生になった人もいます。かつて、ロータリアンが手を貸し、夢を実現させた元奨学生が、今度は次の世代の夢に手を貸している ――米山記念奨学事業の意義と成果を目の当たりにし、大きな感動に包まれた訪問となりました。

次回へ引き継がれたシンボル

翌 27 日の午後、いよいよ「絆 in モンゴル」の式典がスタート。会場に足を踏み入れ、予想を超えるスケールに驚いた人も多かったと思います。舞台前には参加者の出身国の国旗が飾られ、さながらロータリーの国際大会のようでした。

開演ブザーが鳴りやんですぐ始まったのは、モンゴル米山学友会が制作した 19 分の動画「米山学友が集う意義」の上映。ロータリーや米山記念奨学事業とその成果である米山学友会、世界各地から米山学友が集まるようになった経緯が紹介され、さまざまな分野で活躍するモンゴル学友のメッセージが、見る人の心をつかみました。

モンゴル学友会のオイドブ会長の開会あいさつと点鐘（写真右）に続いて、米山記念奨学会の齋藤直美理事長をはじめ各来賓があいさつ。式典中は、モンゴルのダムディン・ツォグトバータル外務大臣が英語で祝辞を述べた以外、進行も含め全て日本語で行われ、国内のロータリアンや家族に向けてはスクリーンでモンゴル語訳が表示されました。

第 2 部は、台湾と韓国、タイ、マレーシアの各米山学友会会長からの活動紹介、さらに日本の学友会を代表して、「感謝 in 熊本」実行委員長を務めた何玉翠（ホーユーツイ）さんがあいさつしました。フィナーレが近づくと、モンゴルの学友が全員舞台に上がり、この日のために作られたオリジナルソング「米山の絆」を披露。実行委員会幹事のナサンバヤル・ボロルマーさんが歌う「絆をつなぎ合わせ明日のために手を組もう　我らは米山学友　ロータリアンの友と歌おう」の歌詞が心に響きました。手を振るモンゴル学友に、客席から多くの人が手を振って応え、まさに会場が一体となった瞬間でした。

最後は 2021 年の台北国際大会に合わせて開かれる次回

バトンタッチセレモニー

大会へのバトンタッチセレモニーとして、「感謝 in 熊本」でモンゴル米山学友会に託されたハートのシンボルが、台湾米山学友会の郭錦堂（カクキンドウ）理事長に渡され、大きな拍手が送られました。

米山の絆と楽しさを満喫

感動冷めやらぬ中、場所を移して開かれた懇親会は一転して打ち解けた雰囲気となり、ゲスト歌手の歌に合わせて、学友、ロータリアンの垣根なく大勢の人が踊りに加わって熱気は最高潮となりました。

また、モンゴルの児童医療支援を目的としたチャリティーオークションも行われ、希少価値のある出品物をめぐって入札合戦が繰り広げられました。3 時間にわたる懇親会の最後は、関西米山学友会が中心となって恒例のダンスパフォーマンスを披露。どの参加者の顔にも満足感が浮かんでいました。

「草原の国モンゴルを存分に楽しんでほしい」と、翌日はウランバートル郊外のツーリストキャンプでミニナーダム（遊牧祭体験）が開かれ、モンゴル相撲や弓術、馬術といった伝統文化を堪能。参加者は 2 日間を通じ、米山の絆と楽しさを満喫しました。

台湾での再会を約束して

全行程を通じて、モンゴル米山学友会の温かなホスピタリティーが感じられました。国を超えた出会いがモンゴルの大地で実現した、素晴らしい大会でした。

参加者の要望で企画された前夜祭やビジネスフォーラムも好評でした。特にビジネスフォーラムは、モンゴルの課題を解決しようとする若手経営者の発表と彼らとの交流があり、「特に印象深かった」との声もありました。

今大会の成功は、参加者一人一人にとって楽しく充実した滞在となるよう、モンゴルの学友たちが企画を出し合い、最後の最後まで全力で準備・実行に当たったからに他なりません。

式典後、「本当に来て良かったです」と伝えてくれたロータリアンがいました。その他にも「モンゴルが大好きになった」「参加して、米山への見方が変わった」「米山の広がりを感じた。実際に学友と会い、彼らの感謝の気持ちが伝わった」「学友がこれほどロータリーとつながろうとしている、学友同士でつながろうとしていると感じられたのが、何より良かった」と、多くの会員が感動を伝えてくれました。共通するのは「次の台湾大会も必ず行きます」という一言でした。

今回参加しなかった皆さんも 2021 年 6 月、台北国際大会に合わせて開かれる「第 3 回世界大会」に参加し、ぜひ“ 米山の絆 ”を体験してください。台湾と世界の米山学友たちがお待ちしています！

最後は恒例のダンスパフォーマンス

本稿は、『ロータリーの友』2019 年 10 月号「よねやまだより」に掲載されたものです。役職などは、すべて掲載当時のものです。

Facebookで最新ニュースを配信しています

～「いいね！」をクリックして応援してください～

Rotary 公益財団法人
ロータリー米山記念奨学会
ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
Tel:03-3434-8681 Fax:03-3578-8281
ホームページ http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

ロータリー米山記念奨学会の環境への取り組み

この印刷は環境に配慮した「水なし印刷」と「ベジタブルインキ」を採用しています。
また、工場の消費電力量の一部はCO_2を排出しないグリーン電力を使用しています。